

Ⅱ

発達理解研究

- ①小学校授業における支援方法について
- ②幼稚園保育における支援方法について
- ③小学校授業における巧緻運動困難への支援方法について

発達理解研究グループ

目 次

I 小学校授業グループ

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 研究目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 授業中の支援チェック表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 授業中の支援282項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 授業研究
 - ①小学校2年生算数「長さをはかろう」(第2時)・・・・・・・・ 2
 - ②小学校3年生算数「わり算」(第2時)・・・・・・・・・・・・ 8
 - ③小学校4年生国語「アップとルーズで伝える」(第3時)・・・・ 13
4. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - (資料1) 授業中支援チェック表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - (資料2) 授業中の支援282項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

II 幼稚園保育グループ

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
2. 研究経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
3. 研究方法・研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
4. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
 - (資料1) 第1回アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
 - (資料2) 第2回アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
 - (資料3) 一人ひとりの『困り感』に寄り添った支援を考える・・・・ 48

III 巧緻運動グループ

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
2. 座位姿勢について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
3. 導入期のリコーダー(運動機能を中心として)・・・・・・・・ 60
4. 鉛筆について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
5. コンパスについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
6. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

I 小学校授業グループ

1. はじめに

平成 19 年度より特別支援教育が本格的に実施され、発達障がいの子供や発達障がい者が推測される児童への支援方法・指導内容について検討される機会が増えています。発達障がいの子どもが、クラスの中で充実して過ごすためには、「個別の支援」、「学級集団づくり」、「授業づくり」の 3 本柱がしっかり把握され、実践されることが必要です。これまで、発達理解グループでは、「個別の理解と支援」「学級集団づくり」について研究を進めてきましたが、「授業づくり」については十分検討がなされていませんでした。そこで、授業グループは、これら 3 本柱のうち「授業づくり」に注目し、平成 20 年度から研究を進めることとしました。

学級には、発達障がいの子どもだけではなく、学びにつまずきを持つ様々な子どもたちがいます。これら、すべての子どもたちを含めて、『誰もが学びやすい、わかる授業』にするためには、どのような支援が必要かを話し合い、その支援の観点を以下の 5 点にまとめました。

①授業ルール ②教室環境 ③意欲 ④個に応じた支援 ⑤子ども同士のつながりです。

特に、③の子どもが意欲を持って学習できる授業の要素が設定されていることと、⑤の子ども同士のつながりを考えた活動がある点は、支援として、今まで注目されることがあまりありませんでしたが、重要なポイントであると考えられます。意欲を持って学習できる授業の要素が設定されていれば、つまずきを持つ子どもも楽しんで取り組み、理解につながるからです。

また、子ども同士のつながりは、今まで集団づくりという面では多く考えられてきましたが、授業においても、その要素を取り入れ、子ども同士がつながり、よりよく関わり合うことで、楽しくわかりやすい授業になると考えました。

2. 研究目的と概要

研究対象授業は、小学校算数、国語の授業としました。研究テーマは、次の 2 点を設定しました。

(1) 学びにつまずきを持つ子どもたちへの具体的な支援方法を集める。

「聞く」「話す」「読む」「書く」「注意集中」が苦手な子どもや「早くできてしまう」子どもへの具体的な支援の方法、板書の仕方、スケジュールの提示、教室環境の設定などについて、市販の図書やインターネット情報、身近な実践から集め、まとめました。

(2) 収集した支援方法を用い、誰もが学びやすい授業について授業研究する。

①上記の『誰もが学びやすい、わかる授業』の 5 つの観点が達成できるよう、具体的な支援を入れた指導案を作り、研究授業を行いました。行った授業は下記の通りです。

2 年生	算数	「長さをはかろう」	(平成 21 年 2 月)
3 年生	算数	「わり算」	(平成 21 年 5 月)
4 年生	国語	「アップとルーズで伝える」	(平成 21 年 11 月)

②授業中の支援については、(1) の支援方法の中から学級担任が日常的に実施可能な方法

を選びました。

③研究授業はビデオや写真に記録し、分析するとともに結果をまとめました。

3. 取組

(1) 授業中の支援チェック表 (資料1 p19～p20 参照)

(2) 授業中の支援 282 項目 (資料2 p21～p30 参照)

(3) 授業研究

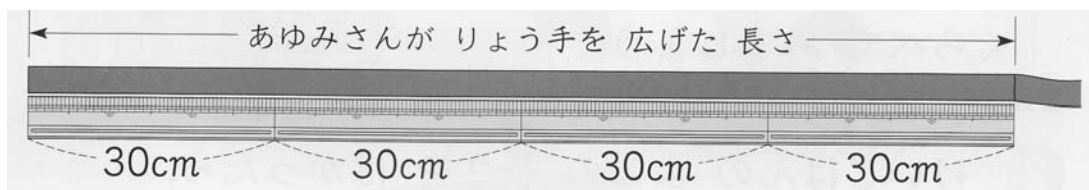
どのような支援をすると『誰もが学びやすい、わかる授業』になるか考え、実際に3つの授業を行いました。

1 小学校2年生算数「長さをはかろう」(第2時)

〈本時の目標〉 長さをあらわす単位「メートル (m)」を理解する

〈問題〉

あゆみさんが、りょう手を広げた長さは、30cmものさしで、ちょうど4つ分でした。あゆみさんが、りょう手を広げた長さは、何cmですか。



〈授業の展開〉

- ①あゆみさんの測定の問題点について話し合う
- ②mを知り、 $1\text{ m} = 100\text{ cm}$ を確かめる
- ③120cmをmとcmで表す
- ④単位換算の問題をする

〈授業で取り入れた支援〉

①授業のはじめに

1時間の授業の流れを提示しました。そのことで、見通しがもて、学習の意欲につながりました。はじめて習う単位 (m) は、伏せておきましたので、「何やら、早くみたいな。」とわくわくしている姿も見られました。



児童が実際に測ってみる

②問題に取り組むときに

児童に実際に測らせました。問題文を読んだだけでは意味が分かりにくい子どもも、実際の操作で理解できることがあります。また、測り方が確認でき、30cmものさしを何度もず

らしてはかる大変さに気づく助けになりました。

③初めての道具（1 mものさし）を使うときに

1 mものさしをはじめて使ったので、行動のコントロールが苦手な子どものために、「持ち運びするときには、立てて体につけて運びます」という安全面の注意をしてから配りました。指示の通りに持ち運んでいる子どもがいたら、その場でほめるということも大事です。

黒板上には、1 mものさしの拡大版を提示しました。そのことで、後ろの子どもにも見えやすく、全員で同じ所に注目することができました。

さらに、1 m = 100 cmという本時の重要な学習内容を、ただ覚えさせるのではなく、何らかの操作をさせて実感とともに学べるよう考えました。メモリを「10、20、30、40…」と、10とびで押さえながら数えさせたり、自分もっている30 cmものさしで、1 mものさしは何cmかを測らせたりすることで、既習事項と関連づけて実感させることができました。

④1 mものさしで測る作業をするときに

テープは台紙に貼って固定しました。固定すると、テープが動かないので操作が苦手な子どもにも測りやすくなります。また、測るときには机を3つ合わせたので、1 mものさしが机の上におさまり、作業がしやすくなりました。

作業のグループは3人としました。3つの役割（さしを動かす人、印を付ける人、メモリを読んで書く人）を決めてから測ったので、どの子どもも活躍でき、協力して作業することができ



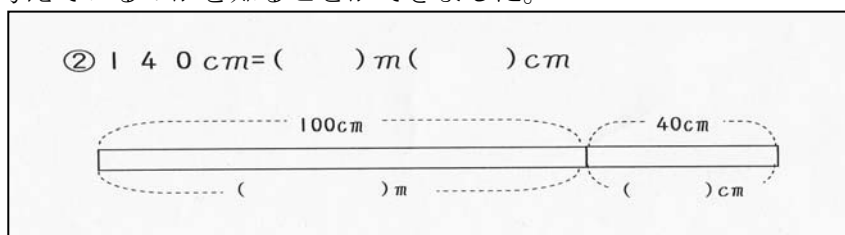
3人で協力して測っている様子

ました。さらに、メンバーは支援の必要な子どもとその子どもをフォローできる子ども、よい関係の子どもを同じ班にするよう考え、支援の必要な子どもが同じグループに重ならないようにしました。

⑤個々の理解度を把握するときに

個々の子どもが理解できているかを、授業の中で把握し、その場で指導していくことが大切です。そのためには、個別指導の時間をとること、確かめの問題をさせることなどが必要です。

この授業では、確かめの問題としてプリントを用意しました。プリントには、図を入れて、100 cmが1 mに換わる所が分かるようにしました。図は、子どもにとっては自力解決するためのヒントになりました。また、教師は、図への書き込みを見て、子どもたちがどこでつまずき、どう考えているのかを知ることができました。



たしかめプリントの問題

このように上手くいった支援もありましたが、より学びやすい授業を目指して改善したい点も見つかりました。どう改善すべきかを皆で話し合い、次の4つにまとめました。

〈今後に向けての反省点〉

①「クールダウンの時間が必要」

子どもたちは、参観者がたくさん来てくれ、座席の配置もいつもと違うその雰囲気に興奮気味でした。そういうときには、授業開始の5分間程度で、計算や九九のフラッシュカード、50マス計算などを行うことも有効です。いつもよく行う計算タイムは、基礎・基本の定着のためだけでなく、学習へ向かう構えをつくるという意味でも重要な意味をもっていることがわかりました。

②「教師が板書する時間も重要」

提示時間の短縮のため、大切なことをあらかじめカードに書いて貼れるようにしていました。確かに提示時間の短縮にはなりましたが、せっかくの大切なポイントが、さっと流れてしまった感じがしました。大切な事柄は、教師が黒板にゆっくりと書いてやり、それを静かに目で追って読むような時間も必要です。

③「視覚支援も説明も、過ぎると逆効果」

学びにつまずきのある子どものために、たくさんの視覚支援や説明を入れました。しかしそのことで、教師はその提示に手間取り、支援が必要な子どもの所へ行くのが難しくなってしまいました。また、子どもにとっても、黒板上に貼り紙が多くなり、大切なことがわかりにくくなってしまいました。視覚支援はあればあるほどいい、ということではないと言えます。同様に、丁寧すぎる説明も、早くしたい子どもの意欲をそぐことになります。

④「授業の山場をハッキリと」

1時間の授業の中で作業が多すぎました。子どもたちは30cmものさしも1mものさしも使い、出したりしまったりで時間がかかりました。本時は1mを知ることが目標です。30cmものさしを使うのを最小限にし、子どもたちが1mものさしで測る時間をしっかりと確保できたらよかったと思いました。

注) 授業後、指導案を再検討し、書き改めたものを載せています。

2年 算数 「長さをはかろう」 第2時

★本時の目標

長さをあらわす単位「メートル(m)」を理解する

★本時の展開

学習内容	予想される児童の反応	学級全体への支援	個別の支援				
			不器用	不注意	意味理解のむずかしい児童	衝動的に行動してしまう児童	対人関係が苦手な児童
<p>1. 今日スケジュール説明</p>		<p>授業スケジュールの掲示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①両手を広げた長さをはかろう</p> <p>②新しい単位「m」</p> <p>③cmをmであらわそう</p> <p>④たしかめプリント</p> </div> <p>*②③は裏返しておき、順に見せていく</p> <p>*終わりの時刻を書いておく</p>		<p>席の工夫</p> <p>声のかけやすい場所に座らせる</p>		<p>席の工夫</p> <p>①刺激の多い席は避ける</p> <p>②三人組で活動するので本児と良い関係の児童を隣にする</p> <p>全員、机の上には何も出さずに始める</p> <p>指導机の上にも物を置かない</p>	<p>学習の流れを示し見通しを持たせる</p> <p>席を工夫する</p> <p>三人組で活動するので本児と良い関係の児童を隣にする</p>
<p>2. あゆみさんの結果をもとにして測定の問題点について話し合う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あゆみさんがりょう手を広げた長さは、30cmのものさしで、ちょうど4つ分でした。あゆみさんがりょう手を広げた長さは、何cmですか？</p> </div> <p>・もっと便利に測りやすくするにはどうすればよいか考え話し合う</p>	<p>・30cmのものさしの4つ分から考える</p> <p>30+30+30+30=120</p> <p>測るのも、計算するのも大変だ</p>	<p>問題文、テープを黒板に貼る</p> <p>問題文を全員で読む</p> <p>児童(1名)に黒板で実際に測らせる</p> <p>三人組で話し合う</p>		<p>話し合う内容を掲示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>もっと簡単に測る方法は？</p> </div> <p>↓</p> <p>(話し合いの後、黒板から外す)</p>		<p>早めに指名して発表させる</p> <p>話し合う前にどのレベルで話すか示す(声のものさし)</p>	

学習内容	予想される児童の反応	学級全体への支援	個別の支援				
			不器用	不注意	意味理解の むずかしい児童	衝動的に行動 してしまう児童	対人関係が苦手 でこだわりがある児童
<p>3. 長さの単位「m」を知り、「m」と「cm」の関係を理解する</p> <p>・1mものさしを観察する 気づいたことを発表する 「30cmのものさしと比べてみよう」</p> <p>・100cmで1mであることを確認する</p>	<p>・100cmある</p> <p>・30cmのものさしと似ている</p> <p>・赤い丸がある</p> <p>・すごく長い</p> <p>・机の横より長い</p> <p>・1mさしを30cmものさしで測る</p> <p>・10とびで数える 10, 20, 30, ……100</p>	<p>ものさしはTが各机に配る 三人組に1つずつ1mものさしを用意する 掲示用ものさしを黒板に貼る 三人組で観察・確認させる</p> <p>・真ん中はどこ？ ・端から40cmはどこ？ などの質問をし、理解を深める</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1m=100cm 1mは1cmが100こ集まった数のカードを黒板に貼る。</p> </div>			<p>掲示用ものさしは児童が使うものさしとそっくりに作る</p> <p>10cmずつ区切った紙製の1mものさしと1mと書いたものさしを並べて提示し、視覚的にわかるようにする (この2枚のものさしは重ねると裏表になるよう、色違いで作っておく)</p>	<p>ものさしの不適切な使い方を言わない ものさしを最後の方に配る 机上はものさしとテープだけにする 1mものさしを体につけ、縦にして運ぶよう全体に指示する できていたらほめる</p>	
<p>4. あゆみさんの両手を広げた長さをmとcmを使って表す</p> <p>・あゆみさんの結果を1mものさしを使って測る 「□m□cmでしょう」</p>	<p>・1m20cm</p> <p>・1m19cm</p>	<p>・120cmは1mと20cmだから1m20cmになることを理解させる</p>	<p>テープがうごかないように、画用紙に3カ所ほどとめておく ものさしがしっかりおさえられているか確認する</p>	<p>視線を合わせ「今から大事なことを話す」という合図をしてから話す</p> <p>120cmは1m20cmであることを全体で確認した後復唱させる</p>	<p>役割を紙に書いて提示する。 ・さしを動かす人 ・印を付ける人 ・めもりを読んで書く人</p> <p>測り方の手順を提示する</p>	<p>測る作業の終わりをはっきり伝える</p>	<p>役割は何か、はっきりさせる 協力して測っていることをほめる 120cmにこだわるようなら ①±1cmは認める ②今日の目標は3人で協力して測ることだと伝え、協力して測れたことを、認める。</p>

学習内容	予想される児童の反応	学級全体への支援	個別の支援					
			不器用	不注意	意味理解のむずかしい児童	衝動的に行動してしまう児童	対人関係が苦手でこだわりがある児童	
5. □cm=□m□cmの単位換算の練習をする ・115cm=□m□cm 6. たしかめプリントをするcmをmとcmに換算する課題	115cmは100cmと15cm 100cm=1mだから、 115cmは1m15cm	どうして1m15cmになるか、児童に説明させる 問題数は5問 一人ひとりの理解度の確認をする m、cmはプリントに書き込んでおく 書き方は、次時に学ぶことを知らせる 早くできたらすることを、プリントをする前に指示しておく ①ミニ先生になって、班の友達の丸付けをする (Tは机間指導し、班の代表、一人に○をつける→その子がミニ先生になる) 間違えていたときには、子ども同士で教え合うようにする ②自分問題を作って解く		mの書き方の指導は、次時にする。 m、cmはプリントに書きこんでおく	友達の説明を聞く時注意が向くよう、合図する(肩をたたく、視線をあわすなど) 見直しするよう、ことばをかける 早くできたときはどうするかを板書しておく	本時はcmをmとcmに換算する問題のみを練習する 図を使って1m15cmになることを説明する 問題にはテープ図をつけ、理解しやすくする つまづいているときには個別指導する	問題数を多くしない 注意が続かない時には自分問題が3問できたらTに見せに来るようにする	間違えていてもミニ先生は×をつけない約束しておく

板書計画

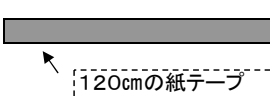
学習の流れ

①りょう手を…
②新しい…
③cmを…
④たしかめ…
2:30 おしまい

今日の予定

1、生活
2、国語
3、音楽
4、書写
5、算数

長さをはかろう



120cmの紙テープ

30cmのものさしの4つ分

$30 + 30 + 30 + 30 = 120$

120cm

拡大1mものさし

$1m = 100cm$
 $1m$ は1cmが100こあつまった数

$1m$

$120cm = 1m20cm$

☆れんしゅう $115cm = \square m \square cm$

早くできたら…

やくわり

- ・さしをうごかす人
- ・しるしをつける人
- ・めもりを読んで書く人

1mものさしではかるには

- ①ものさしのはしとテープのはしを合わせる
- ②テープにもものさしをまっすぐ合わせる
- ③1mのところにするしをつける
- ④しるしにもものさしのはしを合わせてめもりを読む

必要なときに貼り、必要でなくなったらとる

プリントが早くできたらどうするかをここに示す

プリントが早くできたらどうするかをここに示す

2 小学校3年生算数「わり算」(第2時)

〈本時の目標〉 除法に関する用語、記号を理解する。



〈問題〉

クッキーが12こあります。3人で同じ数ずつ分けると、一人分は何個になりますか。

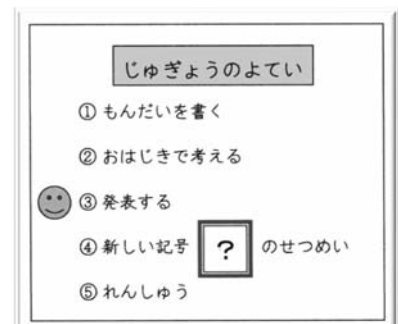
〈授業の展開〉

- ① わかっていることや聞かれていることなどの、問題の内容をつかむ
- ② おはじきを使って考える
- ③ 自分の考えを発表する
- ④ 練習問題を解く

〈授業で取り入れた支援〉

①授業のはじめに

授業の流れを黒板に示しました。その際、右のように磁石をおいて進行具合がわかるようにしました。このようにすると、今どこをしているかがわかり、見通しがつきやすくなります。



黒板に示す授業の流れ

②問題に取り組むときに

まず、板書と子どもの使うプリントを同じにしました。板書とプリントを同じにすると、子どもはプリントのどこに何を書くのか、今何をしているのかがわかりやすくなります。

二つ目に、問題を板書する時に、教師が問題を読みながら書きました。書くのが苦手な子どもの支援になります。また、板書をするときには、一文を短くしました。さらに、一行に一文だけ書くことによって、問題がわかりやすくなります。

問題文は子ども自身が写すようにしました。「長さをはかろう」の授業反省をうけて、クラスの雰囲気が落ち着く時間を作るためです。問題に取り組む構えもできます。また、一瞬だけ問題を見るのとは違い、何度もゆっくり見ながら写すので、言葉の一つ一つに注意を向けられます。

③自力解決するときに

自力解決をするときには具体物を一人ひとりに操作させます。今回の授業ではおはじきを使いました。おはじきが手元にあるので、考えたことをすぐに動かしてみたり、やりなおしてみたりして、試行錯誤がしやすくなります。



自力解決でおはじきを使う様子

さらに今回は、操作しやすいように、プリントの左側にあらかじめお皿の絵をかいて印刷しました。

お皿の絵があることによって、問題文だけでは理解

しにくい子どもが、自力で解決できる助けになります。どこでどのように操作するのか、教師がたくさん指示を出さなくても見るだけでわかります。しかし、それだけでは自分の考えが目

に見える形で残らないので、自分の考え方を、絵や文で書かせました。プリントの右側に考え方を書くスペースをつくりました。絵や文で書くと、自分の考えが整理できたり、あとで友達の発表を聞いたときに、それを見て考えを比較しやすくなったりするよさがあります。

子どもが考えを書くプリントは2枚目も用意しました。早く終わった子どもも意欲を持って最後まで取り組めるようにするためです。

自力解決のときには、見通しをもって取り組むことができるようにするために、始める前に終了時刻を伝えました。

④考えを発表するときに

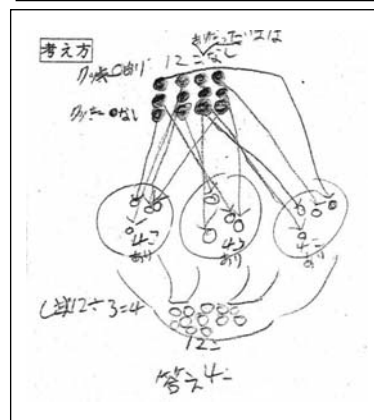
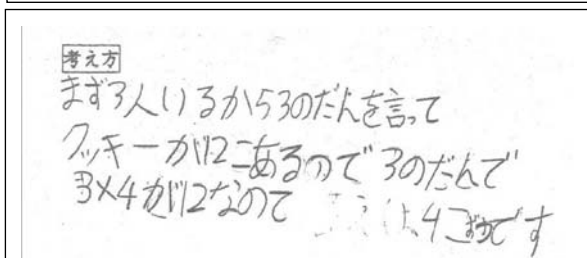
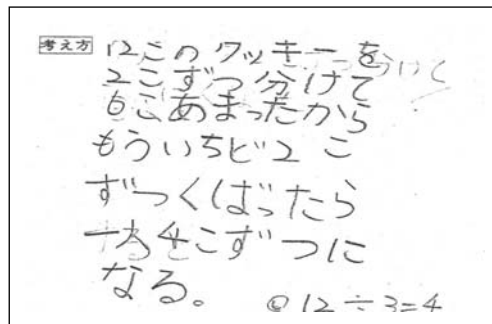
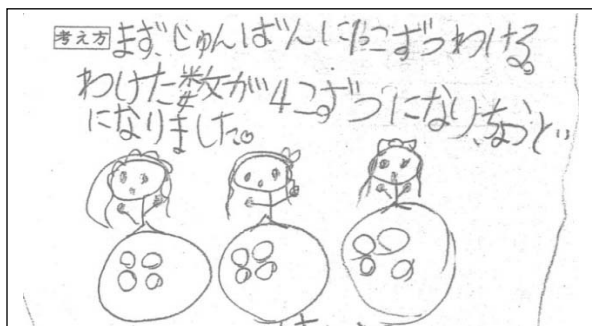
発表のときには待つのが苦手な子どもを早めにあてます。待つ時間が短くなるからです。発表する子どもには、前に出てきて、黒板にあるおはじきを操作しながら、発表させました。話しながら操作することが難しい場合には、子どもは説明だけをして、それにそって教師がおはじきを動かしました。黒板で操作をすると、見ることで考え方が理解できます。



操作をしながら発表する様子

また、発表した子どもと同じ考えの子どもがいたら、その子どもに、もう一度説明をさせました。繰り返し同じ説明を聞けるので理解の助けとなるし、多くの子どもが活躍できるようにもなります。

実際に子どもたちが考えた分け方は下のようのものでありました。一つずつ分けていく方法が多く、ほかにも、二つずつ分ける方法や、かけ算を使うものなどがありました。



子どもたちが考えた分け方

⑤個々の理解度を把握するときに

授業の最後にプリントをしました。短時間で全員の実態を把握できるからです。また、実態把握のために、練習問題の問題文は授業中のものをそのまま使い、数字だけを変えたものにし

ました。今日したことを理解できていたら、解ける問題にするためです。

プリントは、できた子どもから前に持ってこさせ、教師は前で丸付けをします。確実に教師が全員の実態を把握でき、まだどの子どもが解けないのかもわかります。

早くできた子どもには、あらかじめ終わったらすることを黒板に示しておきます。終わった子どもがいても、どの子どもも最後まで落ち着いて学習ができるようにするためです。「終わったら」カードというものを作って置き、それを黒板にはって、その時にすることを下にチョークで書きます。このカードをいつも使うようにすると、毎回終わったらどうするのかを口頭で説明する必要がなくなり、子どもたちは終わったら黒板を見ることが習慣になります。



「終わったら」カード

〈今後に向けての反省点〉

①「子ども同士のつながりを考えた時間を持つ」

一つ目は子ども同士のつながりを考えた時間を、もう少し持てばよかったということです。この授業は、一人で考えて一人ずつ発表するという流れでした。そのため、子ども同士のつながりの支援はあまり入れませんでした。しかし、例えば、発表の時に、まず隣同士で発表するなどして、工夫して支援を入れることができたのではないかと考えました。友達の意見に耳を傾けたり、会話したりして子ども同士がつながりながら学習できます。それは、学びにつまずきのある子どもにとって、大きな支援になると考えました。

②「子どもの考え方を整理して教師が板書することが大切」

二つ目は子どもの考え方を整理して教師が板書する必要があったということです。この授業の発表の時には、子どもがおはじきを操作するだけになってしまいました。動かし方や考え方に短く名前をつけるなどして教師が板書すればわかりやすくなったと思います。例えば「一つずつわかる方法」といったように端的にまとめます。そうすれば、発表内容の違いが比較しやすく、聞くだけではわかりにくい子どもにとって支援になります。

③「操作後、自分の考えを文や絵で表すときの支援が必要」

三つ目は、おはじきで操作をした後に、自分の考えを文や絵で表すときの支援が必要だったということです。おはじきで動かしたことを、絵や文にして表すことに取りかかりにくい子どもがいました。例えば、プリントを白紙にしておくのではなくて、「まず」とか「次に」などの文のはじめの言葉だけ印刷しておくなど、様々な支援が考えられます。

④「机間指導で、教師が子どもの考えを把握し発表に生かす」

四つ目は、机間指導の中で、教師が子どもの考えをもっと把握し、それを発表に生かすことです。机間指導をする時には、個別に支援をすることももちろん必要ですが、それだけではなく、教師が机間指導の間に子どもの考え方を把握しておくことも必要です。子どもの考え方を把握した上で、その後の発表の時に、誰を指名するか、どのような順で進めればわかりやすいかということが考えられます。

小学校3年生算数「わり算」(第2時)

(本時の目標) 除法に関する用語、記号を理解する。

(本時の展開)

	学習内容	学級全体への支援 1～26	個別の支援1～13
	今日のスケジュール説明	1 ・授業スケジュールの掲示 ① もんだいを書く ② おはじきで考える ③ 発表する ④ 新しい記号()のせつめい ⑤ れんしゅう 2 ・スケジュールに関する質問を受け付ける。	1 ・座席の配慮。 2 ・質問がとまらなくなる子どもに対しては、「あと〇個」や「これで最後です」などに見通しを持たせる。 3 ・衝動的に行動してしまう子どもは早めに指名する。
つかむ	1. 課題を理解する。 クッキーが12こあります。3人で同じ数ずつわけます。一人ぶんは何こになりますか。	3 ・教師と一緒に問題文を紙に書き写す。 4 ・一文ずつ書く。一文は短くする。「同じ数ずつわけると、一人分は・・・」 →「同じ数ずつわけます。一人分は・・・」 5 ・一行に一文書くようにする。 6 ・書いた文章をみんなで一緒に読む。	4 ・左利き用のプリントも用意する。
見通す	2. わかっていること、求めることを明らかにする。 ①「何をわけますか」 ②「何個ありますか」 ③「何人でわけますか」 ④「どんなわけかたですか」 ⑤「聞かれているのは何ですか」	7 ・具体物を黒板にはる。(おはじきを12個おく、3人の絵をはる) 8 ・黒板にはるおはじきは見やすい色を選ぶ。 9 ・具体物を操作する。 10 ・板書は子どもの使うプリントと同じになるような配置にする。	5 ・理解しにくい子どもが多ければ、何をわけるとのかに注意させて、一度教師が読む。 6 ・内容の読み取りが苦手な子どものために、問題文に出てきた順に質問する。
解決する	3. おはじきや図、計算で解決し、言葉で表す。	11 ・プリントの左側でおはじきを操作する。 12 ・プリントには三つのお皿を書いて操作しやすくする。 13 ・操作したものをしながら考えを書けるように、プリントの右側に考えを書けるようにする。 14 ・考えはいくつ書いてもよいようにする。 15 ・二つ目の考え方をする時には、おはじきをしまって考えさせる。	7 ・理解しにくい子どもにはヒントカードを配る。 「一個ずつ配ってみよう」 8 ・教師は机間指導して、ヒントカードでもわからない子どもといっしょに操作してみる。 9 ・わからない子どもには、わかる3人に身近な友だちの名前を入れるなどして、たとえば考えさせてみる。 10 ・早くできる子どもには2枚目を用意する。2枚目のワーク

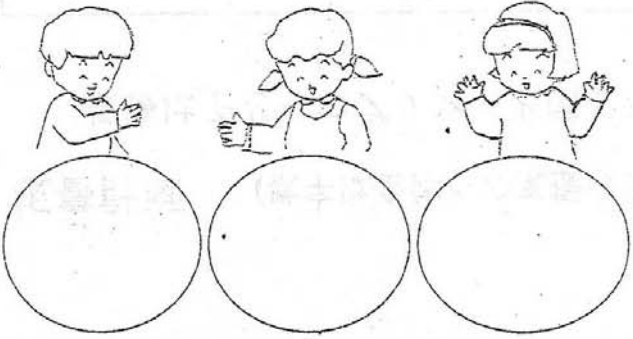
練 り 上 げ る	4. 発表する。	<p>16・前に出て発表する。 発表のときは考え方を板書したり、おはじきを操作したりする。</p> <p>17・同じ考え方をしたほかの子にもう一度説明させる。</p> <p>18・同じやり方をした子に挙手させる。</p> <p>19・発表者が聞いている子どもの方を向いて発表できるように、教師は発表者の横ではなくて、聞いている子ども側に立つ。</p> <p>20・意見を言った子どもの考え方のよさや発表の仕方のよさを、教師が褒める。</p>	<p>シートには「かけざんで考えてみよう」と書いておく。</p> <p>11・集中しにくいときには発表前に「おへそを向けて」「見て聞こう」「ちょびたピン」などの合図を出して集中させる。</p> <p>12・集中しにくい子どもには肩をたたいて知らせたり、指を指したりして注目しやすいようにする。</p>
ま と め る	<p>5. まとめる</p> <p>6. 練習 クッキーが18こあります。6人で同じ数ずつ分けます。一人ぶんは何こになりますか。</p>	<p>21・$12 \div 3$の式と「十二わる三」を書いたカードを黒板にはる。</p> <p>22・全員で読む</p> <p>23・自分のプリントに書く。</p> <p>24・プリントの裏に書く。</p> <p>25・できた人から先生に○をもらうようにして、教師は今日の学習について、子どもの理解の把握をする。</p> <p>26・早くできた人は、すきまノートに問題を作り、絵や図を書いて自分でとく。</p>	<p>13・おはじきを扱う様子を見て、特に不器用な子どもや支援の必要な子どもを把握する。</p>

ワークシート

新しい計算を考えよう

名前 ()

考え方

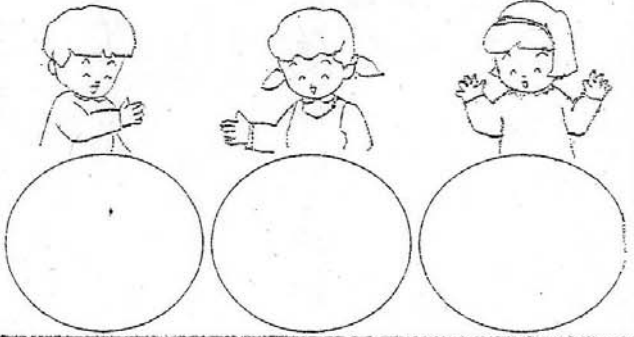


ワークシート (左利き用)

名前 ()

新しい計算を考えよう

考え方



3 小学校4年生国語「アップとルーズで伝える」(第3時)

〈本時の目標〉 大切な言葉をぬかさずに段落を要約することができる

〈授業の展開〉

- ① 漢字や言葉の復習 (フラッシュカード)
- ② 今日のスケジュールを確認
- ③ 前時の復習
- ④ 4段落の要約を考える
- ⑤ グループで交流し、選んだ文を紙に書く
- ⑥ クラス全体で交流する
- ⑦ 5段落の要約を考える
- ⑧ まとめ

〈授業で取り入れた支援〉

① 授業のはじめに

授業が始まる前に、本時の流れを黒板の端に書き、子どもたちが見通しを持って授業を受けることができるようにしました。

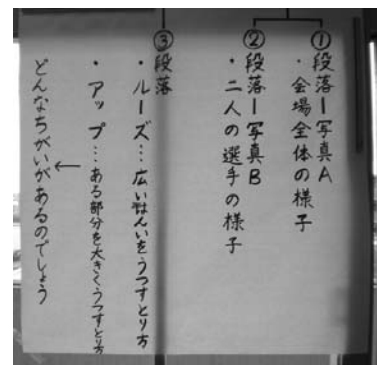
授業のはじめには、フラッシュカードを使って漢字や言葉の意味の復習を行いました。これによって、授業に入る構えができ、子どもたちはスムーズに学習に向かうことができました。また、個人の習熟を確認するため、フラッシュカードを見て一人ずつ答えていく時間もとりました。一回の授業では、全ての子どもをあてることはできませんが、毎時間このような時間をとることで、全ての子どもたちの習熟度を確認することができます。

教室の壁には前時のまとめを貼り、いつでもこれまでの学習の流れを確認できるようにしました。要点をできるだけ簡潔にまとめ、一目で振り返りができるようにしました。授業の中で前時の振り返りをする際には、みんなで同じものを見ながら確認することができました。

前時の復習では、まずこれまでの段落の音読をし、その後質問をしました。できるだけ多くの子どもが答えられるように質問は簡単なものにししました。誰もが答えられるようなもの

が多かったので、たくさんの子どもが手を挙げ、積極的に発言をすることができました。また、質問をする前に、あらかじめ「質問は2回繰り返して言います。よく質問を聞いてから手をあげましょう」と伝えました。質問を2回繰り返すと、一度では聞き取れない子どもの助けとなり、その他の子どもにとっても自分の答えをもう一度確かめる時間となりました。

前時の復習の後、今日のめあて「大切な言葉をぬかさずにまとめよう」を提示しました。口頭で伝えるだけでなく、黒板に提示することで、子どもたちは1時間の中でいつでもめあてを意識することができました。



教室に掲示した前時のまとめ

②自分の考えをまとめる時に

要約文を考える前に、みんなで音読をしました。音読の際には、「大切な言葉や文を探しながら読みましょう」と音読のめあてを伝えました。めあてをもって音読をすることで、子どもたちの意欲が高まり、また、要約を考えるという次の学習活動にもつながりました。

一人で要約を考える活動の前に、要約の手順をみんなで確認しました。要約の手順は、「①大切だと思う言葉や文に線を引く ②言葉や文をつなげ、短くまとめる」というもので、黒板に手順を書いた紙を提示し、子どもがいつでも自分で確認できるようにしました。要約の手順は、この単元で繰り返し必要なものなので、紙に書いておくと、その後の授業の中で何度も使えるのでとても便利でした。

一人で要約を考える際、支援の必要な子どもに対しては、少し様子を見てから必要に応じてヒントカードを渡しました。ヒントカードは2種類用意し、1枚目のヒントカードではわからない子どもに2枚目を渡すようにしました。ヒントカードによって、自力解決が難しい子どもも最後まで意欲を持って課題に取り組むことができ、また教師も個別対応に追われることなくクラス全体に目を向けることができました。



ヒントカードをもらって考えている様子

<ヒントカード>

- 1枚目 ☆大切な文は2つあるよ
- 2枚目 ☆2つの文には反対のことが書いてあるよ

③グループで意見を交流する時に

それぞれが考えた要約文を全体で交流する前に、少人数のグループで互いの意見を交流しました。グループは一人ひとりが自分の思いを発言できるように、話し合いやすい3人グループとしました。そして交流の前に、「必ず全員の意見を聞こう」というルールを確認しました。この結果、どのグループも全員が積極的に話し合いに参加することができていました。

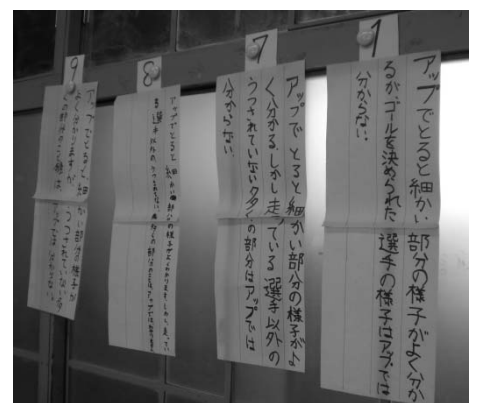
また、グループの中でどの子どもも活躍できるように「発表用紙を取りに行く人、書く人、発表用紙を貼りに行く人」と役割を分担しました。

各グループの発表用紙には、罫線を引いておき、文字が小さくならないようにしました。また、一目でわかるように紙の上のほうにグループの番号を書いた札をつけておきました。

④全体で意見を交流する時に

全てのグループの発表用紙が見えるように、一面の壁に用紙を並べて貼りました。同じ内容のものは重ねて整理し、分かりやすくしました。

意見を交流する際には、話題にあがっている発表用紙をホワイトボードに掲示して話し合いを進めました。こうすることで、今、何について話し合っているのかということが、一目で分かり、たくさんの発表内容を整理していくような今回の話し合いでは、視覚支援としてとても有効でした。



グループの発表用紙

⑤個別の理解度を把握する時に

授業の終わりに子どもたち一人ひとりの本時の理解度を把握するために、次の段落の要約文を一人で考える時間を作りました。この際にも、支援の必要な子どもに対しては、ヒントカードを渡しました。

できた子どもから教師にノートを持ってくるようにし、一人ずつ理解度を確認しました。

<ヒントカード>

☆ でとると、がよく分かるが、は、
なかなか分からない。

<今後に向けての反省点>

① 「グループでの話し合いを取り上げることが必要」

各グループの話し合いの結果を発表するだけでなく、話し合いの過程も交流したほうが、要約文を作るために必要なポイントについて話し合うことができたと思います。

② 「教師は、各グループの意見をまとめ、何が正解なのかおさえることが必要」

グループの意見を交流するだけでなく、要約をするときに必要なポイントをきちんとおさえる必要がありました。今回の授業では、交流に時間を多く費やしてしまい、最後のおさえが曖昧になってしまいました。

1. 日時 平成21年 11月2日(月) 3時間目

5. 教材名 「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下)

2. 学年・組 吹田市立東佐井寺小学校 4年1組(36名)

6. 単元目標 対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことを伝える方法について興味を持つ。

3. 指導者 浅野 藍

7. 本時の目標 大切な言葉をぬかさずに段落を要約することができる。

4. 教科 国語

8. 本時の展開

学習内容	学級全体への支援	個別の支援
<p>1、漢字やことばの復習(フラッシュカード)</p> <p>2、今日のスケジュールの確認</p> <p>3、前時の復習</p> <p>4、要約を考える ・音読(いくつかのパターンで)</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4段落を大切な言葉や文をさがしながら読みましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容理解がスムーズにいくように漢字や言葉は本単元の中から選ぶ。 ・ 授業スケジュールの掲示 <ul style="list-style-type: none"> ① 復習 ② 段落4 ③ 段落5 ④ 学習感想 ・ 全員で1, 2, 3段落を音読し、学習内容を確認する。 ・ 学習内容の復習では、簡単な質問を多く用意し、できるだけ多くの子ども達が発言できるようにする。 要約・・・大切なことを短くまとめる ・ 前時の学習をまとめ、模造紙に書いたものを教室の横に貼り、学習内容を思い出す手がかりにする。 ・ 本時の目標を提示する。「大切な言葉をぬかさずにまとめよう」 ・ 学習の見通しを持たせる。 ・ 一人ひとりがめあてにそった音読ができるように、声かけをする。 めあて・・・「大切な言葉や文を探しながら読みましょう」 <ul style="list-style-type: none"> 1、追いかけて読み 教師→児童 まだ読みに慣れていないので、教師が手本となって先に読む。 読み方の間違いがあれば、その都度正しい読み方を指導する。 2、ペア読み 二人で交互に読む。 句点で交代することで、一文を意識させる。相手の声をよく聞くことでも、大切な言葉や文に気づけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字や言葉の意味がわからない子どもは、友だちの声を聞いて学ぶことができる。 ・ 列ごとにあて、正しく読めたことを認める。 ・ 今、どこを学習しているのかがわかるように磁石で進行を示す。 ・ 発表が苦手な子どもでも挙手できそうな質問を入れる。 ・ 漢字の読みが苦手な子には、あらかじめ教科書の欄外に読み仮名を振った漢字を書かせ、いつでも確認できるようにする。 ・ 読みの苦手な子同士にならないように配慮する。

・一人で要約を考える

4段落の要約を考えましょう。

5、グループで交流し、選んだ文を紙に書く

グループで話し合い、一番よいと思うものを選びましょう。

6、クラス全体で交流する

クラスみんなで話し合い、よい要約文について考えましょう。

・抜かしてはいけない言葉を見つけ、その理由を話し合う。

7、5段落の要約を考える

自分の力で5段落を要約しましょう。

8、まとめ
次時予告

・要約の手順を確認する。
前時に学習しているが、いつでも確認ができるようにもう一度黒板に提示する。

- 1 大切だと思う言葉や文に線を引く
- 2 言葉や文をつなげ、短くまとめる

・グループは、話し合いがしやすいように3人グループとする。
役割を分担しておく A紙を取りに来る、B書く、C紙を貼りに行く

・全員が参加できるように話し合いのルールを確認する。

- 1 必ず全員の意見を聞こう
- 2 よいものを選ぼう

・行つきの用紙を用意し、文字が小さくなりすぎないようにする。

・全てのグループの発表用紙を壁に貼る。
・同じものは1つにまとめて貼る。
・違いに着目させ、線を引いたり、色をつけたりして目立たせる。
・挙手が少ないときには、班で話し合う時間を持つ。
・大切な言葉が要約に入っているか、自分の書いた文を確かめる。
赤で印をつける。 書いていない子は赤で書く。

・要約ができたなら、教師のところに持ってこさせる。
(大切なところを抜かしていないかに、ポイントを絞って評価)

・注意の散りやすい子どもには、そばに行って手順を確認する。

・ ヒントカードを用意し、なかなか書き出せない子には、途中で提示する。

ヒントカード

- 1 枚目 ☆大切な文は2つあるよ
- 2 枚目 ☆2つの文には反対のことが書いてあるよ

・ 机間指導をし、話し合いに参加しにくい子どもにはそばで助言する。

・ 話し合いの中で、黒板にはった文と自分の書いた文を比べさせ、どの子も話し合いに参加できるようにする。

・分からない子は、ヒントカードをとりこくる。

ヒントカード

☆ でとると、 がよく分かるが、

は、なかなか分からない。

・早くできた子は学習感想を書く。

4. おわりに

子どもたちの生活の中で、授業は、多くの時間を占めています。また、授業の果たす役割も大きなものです。そのため、毎日の授業で支援をすることは、子どもの成長にとって大きな意味を持つと考えます。

『誰もが学びやすい、わかる授業』のための支援というと、何か特別なことを考えなくてはと、思われるかもしれませんが、私たち、授業グループが提案した支援は、学級担任が日常的に無理なくできるような支援です。授業支援の5つの観点をバランスよく取り入れ、子どもたち一人ひとりのニーズに合わせて支援を行うことが、どの子どもにとっても、わかりやすい授業につながると考えます。

授業中の支援チェック表

資料1

A. 授業中のルール

- ①授業前のルール(ベル着、トイレは休み時間になど)を守っている
- ②発表のルール(黙って挙手、ハイは1回など)を守っている
- ③聞くときのルール(合図で注目、目を見て聞く、質問は話が終わってからなど)を守っている
- ④書くときのルール(下敷きを使う、線は定規で引くなど)を守っている
- ⑤忘れ物をしたときのルール(先生に言う、宿題は次の日に持ってくるなど)を守っている

B. 教室の学習環境

- ①「一日のスケジュール」を掲示している
- ②前の黒板周りは、すっきりしている
- ③水筒、ファイルなど、個人の持ち物の置き場所が決まっている
- ④教室はきれい(机はきっちり、ゴミはなし、作品はがれず、教師机の上にもものがないなど)
- ⑤机やいすの高さが、子どもの体に合っている

C. 意欲

- ①子ども達のがんばりを認め、ほめている
- ②視覚教材(挿絵を拡大したものなど)を掲示したり、具体物を見せたりしている
- ③ゲームやクイズなど、楽しい要素を授業に取り入れている
- ④子ども達一人ひとりが自分で課題を選べる機会を作っている
- ⑤わかりやすい板書を心がけている

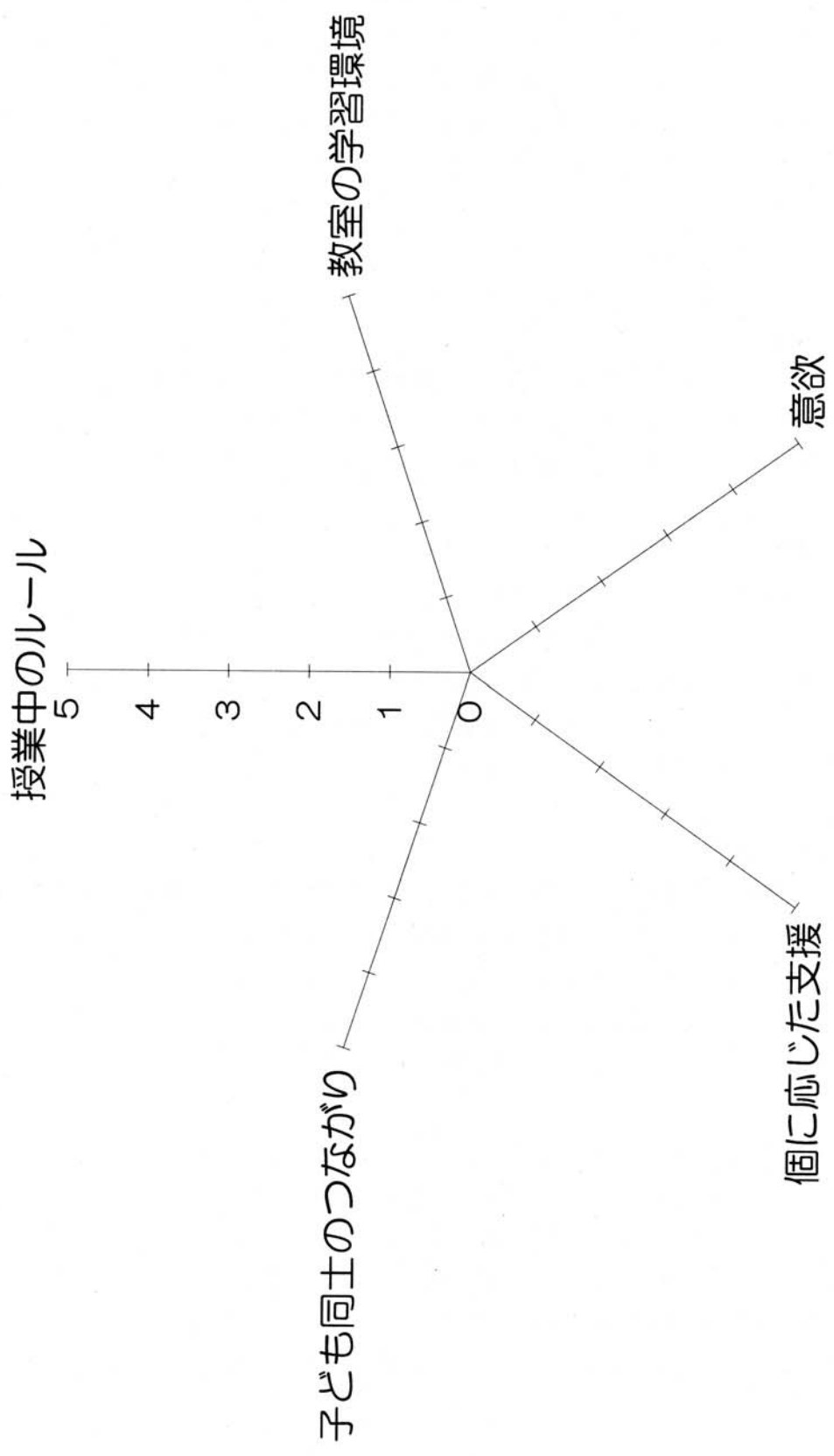
D. 個に応じた対応

- ①期間指導の時間をとり、支援が必要な子どもに指導できる時間をとっている
- ②子どもの実態に応じて、問題の量を加減することがある
- ③課題が早くできた子どもが何をするか、指示を出している
- ④授業でここの理解度をチェックする機会を持っている
- ⑤LD,ADHD,高機能自閉症など、発達障がいについての知識がある

E. 子ども同士のつながり

- ①友だちがこもっているときに、周りの子が自然と声かけ、助け合っている
- ②わからないことを友だちに聞くことができている
- ③子どもの中に、間違いや失敗を認め合える関係ができている
- ④授業に話し合い活動を積極的に取り入れている
- ⑤進んで一人ひとりのよさを認め、クラス全体に広めている

授業支援を考える



A. 授業ルール

次のようなルールが考えられる

- 1 話すときは、手をあげて、名前を呼ばれたら話す。
- 2 名前を呼ばれたら、返事をする。
- 3 授業中は、友達の名前も「さん」をつけて呼ぶ。
- 4 文の終わりは「～です」「～ます」の言い方にする。
- 5 話す人に注目して「見る」「聞く」の行為を適切に行えるように約束を決める。
- 6 教師が黒板の前に立ったら、友達と話すのをやめる。
- 7 教師が黒板の前に立ったら、教師に自分の体を向ける。
- 8 教師が黒板の前に立ったら、教師の顔(の方)を見る。
- 9 教師が黒板の前に立ったら、手足の動きを止める。
- 10 相手の目を見て聞く。
- 11 座り方を示す。例:おへそを机の真ん中に ぐーひとつ、足ぺったん、
- 12 書くときは下敷きを使う。 せなかペン!
- 13 線を引く時(筆算なども)定規を使って書く。
- 14 次の時間の用意をしてから休み時間にする。
- 15 トイレは休み時間に行く。
- 16 忘れ物があつたときは、連絡帳に書いて教師に見せる。
- 17 宿題の提出は、朝一番に班ごとにかごに入れる。



ルールの示し方・定着させるために教師がする支援

- 18 徹底したい学級の約束を決める。(例)「人の話を聞くときはその人の方を向いて口を閉じる」
- 19 ルールや約束を提示する際は、端的に口頭で伝える。
- 20 黒板の前に立ったら、「話すよ」と言ってから、学級内を確認して話す。
- 21 見てわかるように絵や文字で提示する。
- 22 SST(ソーシャルスキルトレーニング)、ロールプレイングを用いる。
- 23 場面に応じた行為を、できることから徐々に増やしていく。
- 24 約束が守れたときには、言葉や事前に子どもと決めた合図で、子ども達に返す。「できたね」「OK!」という(視線を合わせてうなずく、手で○を作る、親指を立てるなど)
- 25 指示された後に即座に行動できないときは、数秒待つ。
- 26 約束を日常的にできるようになるまで、できたことを認め、ほめる。
- 27 できたことを伝えることを徐々に減らし、適当な機会にだけ、行う。
- 28 できたことを伝える集団を個人から、グループ、班、全体と大きくしていく。
- 29 集団でできて揃うことの気持ちよさやすばらしさを伝えていく。
- 30 教師の話や活動を聞くと、活動の内容がわかることを繰り返し伝える。
- 31 話を聞く態度や姿勢については、子どもの特性を認めた上で、適切なやり方を伝える。
- 32 最後に教師も「質問ありますか」と聞くようにする。
- 33 授業開始のルールの定着のために、チャイムが鳴ったらすぐに授業を開始する。
- 34 教師自身が子どもに示したルールを意識して、細かく声をかけたり実行したりして定着させていく。
- 35 クラスで守るべきルールを子どもが考える機会を持つ。

B. 教室の学習環境

見通しの視覚化(スケジュール)

- 36 前の日に、次の日の時間割のカードを貼っておく。
- 37 黒板に1日の時間割を提示し、横に学習内容を書く。
- 38 時間割の変更があったときは、書き込む。
- 39 予定を変更する場合は、直前になって知らせるのではなく、事前に伝え、変更後の予定を視覚的に確認できるようにする。
- 40 1日の活動予定をホワイトボードに提示・教師や友達を書く・困難を持つ児童が自分で書く。
- 41 作業や課題を明確にして、作業の流れをカードで提示する。
「これが終わったら僕の好きなプリントだ」「質問タイムまで、我慢しよう」など見通しを持つことができる。課題や作業を明示しておくことは、みんなと同じ速さで作業や課題に取り組めない子どもにとっても、自分の速さで取り組める安心感を与えられる。
- 42 教科によって一時間の流れをパターン化し、見通しを持ちやすくする。
(例)算数・ウォーミングアップ・今日の問題・練習問題・チャレンジ算プリ(子ども達が自分で選べる3種類の算プリ)・今日のポイント(まとめ)→1時間の見通しを小さなカードにして提示する。
- 43 1週間の見通し:1週間の学習予定を配布する。
- 44 清掃の手順書を提示する。
- 45 1時間の流れを提示し、磁石で進行具合を示す。

掲示物

- 46 授業のとき、掲示板にカーテンを引くなどして掲示物を見えないようにする。
→黒板横等の掲示板には、時間割、カレンダー、生活目標等、子ども達の日常に密接に関係する掲示物が多い。普段はカーテンで隠す。必要な時はカーテンを開けてみる。これなら双方のニーズに応えられる。
- 47 掲示物の色は、淡くて落ち着いた色にする。(水色・アイボリー・薄ピンクなど)
- 48 板書に集中できるように黒板の周りを片付ける。
- 49 黒板上も授業に不要な掲示物や前時の板書は消去し、できるだけまっさらな黒板を心がける。
- 50 教室の照度にも配慮する。
- 51 作品や掲示物ははがれていたらすぐにとめなおす。

物の置き方

- 52 必要のないものは、教室におかない。
- 53 どこに何をしまうか、全員にわかるように明示する。
- 54 ファイルは班ごとにまとめる。(一年間変わらない場所)
- 55 教師の机の上には物を置かない。
- 56 ごみや落し物がないように気をつける。

座席・配置

- 57 作業がしやすいように、大きめの机を用意する。
- 58 立って作業できる場所を設定する。
- 59 落ち着いて学習できる空間、混乱したときに落ち着ける空間を準備する。

- 60 基本的に全員が前を向いている一斉授業の並び方をする。
- 61 学習活動に合った机の配置を工夫する。(2人、3人、班の形など)
- 62 自分の机の場所が分かるように、床に印をつけておく。
- 63 机をくっつけずに一つ一つを離す。
- 64 聞くことが難しい子は、座席を教師のそばにしたり、落ち着いた子どもの間にしたりして工夫する。
- 65 注意の散る子は、後ろや教室の端など、できるだけ多くの人に囲まれないようにする。(視界にたくさんの人が入らない)
- 66 不注意傾向の子は前に、多動傾向の子は、端か後ろにする。
- 67 机やいすの高さを調節する。
- 68 混乱を引き起こす原因やもの(大きな音や声、ざわざわした雰囲気、注意を引く刺激など)を可能な限り取り除く。

指示の出し方

- 69 静かになってから指示を出す。
- 70 場に応じて、声のトーンや大きさを調節する。
- 71 いくつ話をするか先に言う。「今から〇つ話をします。後で質問する時間をとりますから、それまでは、黙って聞きましょう。ひとつ目は・・・二つ目は・・・」
- 72 話の前に何を話すのか伝える。例「今からルールの説明をします」
- 73 指示代名詞(これ、それ、あれなど)はできるだけ使わない。
- 74 短い言葉で話す。
- 75 手本を見せる。
- 76 「短く、はっきり、ゆっくり」話す。
- 77 だらだらと話さない。
- 78 より具体的な言葉で伝える。「ちゃんと」ではなく、「足をピタッとつけて」
- 79 重要なポイントのときは、仕切りなおして集中させる。
- 80 複数の指示がある場合は、一つの指示による行動ができてから、次の指示を出す。
- 81 質問は全ての話が終わってから受け付ける。
- 82 話した内容を子どもに言わせるなどして、最後に確認する。
- 83 「静かにしましょう」「質問は手をあげて」「友達の話を聞きます」「大きな声で」などの指示を画用紙に書いて、指示を視覚的にする。
- 84 視覚的な指示をうまく使って、口頭による指示を減らす。

C. 意欲

ほめる

- 85 「教室は間違えてよい場所に」正しいことの他に、がんばった過程や行為の尊さを認め、伝える。
- 86 間違いの中の正しい部分を認める。
- 87 授業は間違いの後にどうすればよいかを学ぶところであることを伝える。
- 88 複数の教師で「教室は間違えてよい場所である」と言う。
- 89 できて授業が終わりになるようにするとともに「がんばったね」「〇〇ができたね」と子どもに伝える。
- 90 一人ひとりに自分のめあてを持たせ、自信を持たせる。
- 91 約束事が守れたり、望ましい行動がとれたりした時には、すぐにほめる。
- 92 当り前のことであっても、適切な行動(いすに座っている、大声を出さないなど)ができていたら、

言葉でほめる。

- 93 「これができるようになったらほめてねカード」を前に貼らせる。「思い切って手をあげたらほめてね」「次の授業の準備をしていたらほめてね」といった具合である。
- 94 シールなどによるポイント制を利用する。
- 95 最後に、目標に到達したことを、「全員でできた」、「がんばった」と確認して終わりにする。

教材の工夫

- 96 作業や課題は、一度に達成することが可能な量になるように、小さなまとまりに分ける。
- 97 子どもが意欲的に取り組める教材(興味を引く教材、見やすい教材、図や絵などを取り入れた教材)を作成する。
- 98 長さや、重さ、かさの学習をするときには、さし、はかり、カップの拡大したものを使って説明する。
- 99 30分の間にVTRを視聴したり、作業や実習等を取り入れたりして、授業に変化を持たせる工夫をする。
- 100 教室にプロジェクタとパソコンを置く。
→イメージ化することで、学習内容をつかみやすくすることができる。
→集中しにくい子どもでも、スクリーンの映像には集中できる。
- 101 理科のスケッチでは、デジカメの画像をテレビに映す。
→平面で掲示することで、描きやすくなる子がいる。→デジカメを通すことで、スケッチのポイントを拡大したり、明度を変えて見やすくなる。
- 102 良く描けている作品は、投影し模範とする。→描いたスケッチを見ることで描ける子どももいるし模範になった子どもはみんなに認められる機会になる。
- 103 教科書を画像として取り込んでおいて、必要な部分だけをクローズアップで提示する。
たくさんの時計の絵があるが、教科書をそのまま使うと、いったいどの時計を見たらいいのか、わからない子どももいる。注目させたい時計だけをスクリーンに大きく映し出すと、今、何を見ればいいのか、一目でわかる。
- 104 行事の感想を作文等を書くときに、その時の様子を時間に沿って画面に映す等し、視覚的に示す。
→その時の様子や感情を想起しやすくなる。
- 105 テストの用紙を拡大したり、問題用紙にのせる問題数を少なくしたりする。
- 106 ノートをとる代わりにテープレコーダーやノートのコピー、パソコンを利用するなどの方法を認める。
- 107 テストの解答に、代筆者やテープレコーダー、パソコンなどの使用を認める。
- 108 「次の授業の準備は〇〇です」のイラストカードや、準備物のイラストカードを黒板に貼っておく。
→授業が始まっても、まだ多くの子ども達が準備できていないときには、黙って黒板のカードを指さす。気づいた子ども、できた子どもにはOKサインを送る。他には、「発表者の方を向いて聞こう」「意見のある人は静かに手を挙げよう」などのカードも有効である。

授業構成の工夫

- 109 活動にメリハリをつける。たとえば穏やかなものとアクティブなものを準備したり、途中で体を動かす活動を入れる。
- 110 漢字の練習:①立って、体の前に両手で大きく巨大半紙を想定する②片手を巨大筆に見立てて、手にたっぷり墨を付けて③仮想半紙いっぱい筆順を唱えながら漢字を書く。
- 111 音読:学級を二つに分け、一文ずつ交代に立って読む。
- 112 立ったり、座ったり、声を出したりして、体を動かしながら学習する時間を作る。
- 113 子ども達の集中が途切れたと思った時、ちょっとした手遊びやゲーム、学習なぞなぞを挟んでみる。
- 114 学年に応じた暗算で答えられる計算問題を出し、答えの数字をあらかじめ決められたサイン(暗号)

で表す。例えば、「1」は両手を挙げる、「2」は片手をあげ、逆の手で挙げた腕の肘をつかむ。

- 115** 活動内容の要点と活動順序の提示・教科毎に授業展開のスタイルをおおむね揃える・展開(活動内容)の順序を明記する・活動目標を提示する。(42と同じ)
- 116** ある程度の流れの型を決めておく。国語ならばフラッシュカード→新出漢字→音読→読解 など。
- 117** 教科による特質を押さえた展開の工夫、特に教科書等を読む、ノートに記入する、発表する等において、本人が十分に活躍できるような時間配分をする。
- 118** まとめにおいては、めあてを確認しつつその授業で活動した内容をまとめたり、次の時間の予告や準備する学習用具などを伝える。

子ども主体の活動の工夫

- 119** 自分の力で意欲的に活動できる時間が45分授業時間の中で10～15分あるような活動内容にする。
- 120** 守るべきルールや約束事のいくつかを子どもと相談して決める。(35と同じ)
- 121** 子どもの特性を踏まえて役割の分担を決める。
- 122** 活動内容や課題の難易度を子どもに合わせて用意し、子どもが選択できるようにする。
- 123** 同じ考えをした子どもにも、もう一度同じ説明をさせて発表の機会を多く設ける。
- 124** 発表をしない子どもも、挙手や起立などさせて、考えを表現する機会を設ける。

板書

- 125** 部分ごとに、どこに何を書くのか決めて固定する。
例1:①スケジュール②今日学ぶテーマ・今までに学習した知識を整理する部分③今日の課題を考える部分④学習したことをまとめる部分⑤練習問題の進め方と指示する部分
例2:①絵を描いたり貼ったり、メモ的に書きとめる、子どもに書かせる等②授業の内容(流れ、子ども達がノートに写す内容)に使う場所1③授業の内容に使う場所2。片方を書いたら次のブロックに書く。内容が多い場合は先に書いたブロック全体を消し、前の記述と混乱しないようにする。
- 126** 問題をたくさん書きすぎない。たくさんになりすぎたら消す。
- 127** 板書をノートに書き写すまでのちょっとしたの間でも内容を覚えておくことが難しい子の場合、早く消してしまうと写せなくなるので、消すタイミングにも注意する。
- 128** ノート指導の時は、ノートと同じマス目の黒板を用意すると視写しやすい。
- 129** 子どもがノートに写すことを頭に置いて、ノートに写しやすく構成する。
- 130** 子どもの持っているプリントやノートと同じ板書になるようにする。
- 131** 少し広めに消してから、続きを書くようにする。
- 132** 行と行の間をあけて、ゆったりと書く。
- 133** 書かれた文字が一文字として捉えられるように大きさにも考慮する。→想?相心?一文字が部分ごとにばらばらに見えてしまう。
- 134** 後ろの児童にも見やすい大きさや、児童によって見えにくい色、過度の多色遣いには配慮が必要。
- 135** 授業に使う色の意味を統一する。重要な項目は赤色で、考えるヒントは、黄色で示し分ける。
- 136** マークや色囲みを使って、大切なことや決められた作業を視覚的に強調して明示する。
- 137** 一斉に書く作業について、鉛筆マークを貼り付けることで示す。→「書き取りなさい」という消えてしまう音声指示を補完明示し続けることができる。
- 138** 黒板に書いたり、操作したりしながら、自分の考えを発表するとわかりやすい。
- 139** 省略はなるべく避けて、文字や図、グラフなどもできるだけ丁寧に書く。
- 140** 教師が問題を読みながら板書すると、見て書くのが苦手な子のヒントになる。

D. 個に応じた対応

話すことが苦手な子ども

- 141 書いたものを見て話してもよいことにする。
- 142 発表の時には、あらかじめ話すことを書いておいてから発表させるようにする。
- 143 話す練習をする時間をとる。
- 144 朝の会、終わりの会の司会、学級会の司会、授業中の発表等では、話の型を示す。
- 145 子どもの話をじっくり聞き、子どもが話した内容についてそのポイントを整理して確認する。
- 146 その子が話をしているときは、じっくりと話を聞き、話そうとしていることを適当な言葉で言い換える。
- 147 指示代名詞が多いときは、いくつかの選択肢を示したり、言葉を補ったりする。
- 148 「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」という疑問詞を提示し、それに合わせて話をするようにさせる。
- 149 教師自身が自分の話し方に気をつけるとともに、質問の仕方にも配慮が必要。筋道を追った話をするのが苦手な子どもに質問するときは、順を追って一つずつ確認しながら進めていく。
- 150 教師は正しい言葉や文で話しかける。
- 151 子どもが話しやすいように、実物や写真や絵などを用意する。
- 152 子どもが話しやすいように、いくつかの選択肢を示す。
- 153 その時間の活動内容の報告では、発表しやすいよう、つまずきのある児童から発表するような配慮をする。たとえ断片的であっても、教師が援助しやすい。

聞くことが難しい子ども

- 154 聞くことが難しい子には窓の外音が邪魔になることがあるので、窓から離れた席にする。また、モデルとなる子がいた方がよい場合は、最前列ではなく、前から2～3列目の席にする。
- 155 黒板に、キーワードを書きながら話す。
- 156 具体物を見せながら話す。
- 157 大事なことは2回言う。「後で誰かにもう一度言ってもらおうよ」
- 158 言葉をできるだけ減らす。
- 159 数字や文字、言葉を聞いて書く練習をする。
- 160 数字に1を足したり、1を引いたりした数を書く練習をする。
- 161 聞くのが苦手な子に近寄り、アイコンタクトをとって、注意を引きながら話す。→自分に関係していることを話していると子どもに意識させることができる。
- 162 アイコンタクトだけでなく、名前を呼んで注意を向けたことを確認してから話し始めるようにする。
- 163 話に関係ある絵を用意する。
- 164 黒板に順を追って指示内容を書く。視覚的に確認できるようにすることは、聞いただけでは理解が難しい子にとって、わかりやすい方法になる。
- 165 指示代名詞はできるだけ使わない。(73と同じ)
- 166 苦手な子どもでも、聞きやすくなるような環境を作る。
- 167 必要な情報を「短く、はっきり、ゆっくり」話す。(76と同じ)
- 168 複数の指示がある場合は、一つの指示による行動ができてから、次の指示を出す。
- 169 話の見通しを持たせるために、あらかじめ要点をあげる。
- 170 話の内容や重要なポイントが理解できているか個別に聞いたり、言語化させたりして確認する。

書くことが苦手な子ども

- 171 書く量を少なくする。

- 172** あらかじめ薄く書いておいて、なぞれるようにする。
- 173** ワークシートを用い、その時間のキーワードとなる言葉だけを書き入れさせる。
- 174** 板書と同じワークシートを作る。低学年ではキーワードを書き入れる、高学年では自分なりの言葉が書き入れられるようにする。
- 175** ワークシートを使うと書く作業の負担を減らせるので、授業での内容の理解や重要事項を考えることに集中できる。
- 176** 黒板からノートへの視写が困難な子どもにはノートと同じ用紙に板書を書き取り、それを机に置いてあげる。子どもは、それを視写することでみなと同じノートになる。
- 177** ノートの書き方を示す。①線を引く②日付を書く③学習課題を書く④教科書のページや問題番号を書く⑤問題と問題の間は一行あける。
- 178** 板書の書式(左から右へ書くなど)を決めておく。
- 179** ポインタを利用して黒板に注意を向けやすいようにする。
- 180** 書き切れなかった場合、どうすればよいかをやり始める前に示す。(〇〇の時にしようね等)
- 181** 鉛筆や消しゴムなどは、使いやすい物を用意する。特に不器用さのある場合には用具に関する配慮が必要。
- 182** マス目の大きい用紙や罫線のある用紙を用意する。その子どもだけ特別な物を用意するのではなく必要ときには誰でも使えるようにするなどの配慮も必要。
- 183** ノートのマス目の大きさや罫線の幅、プリントの文字などを拡大する。
- 184** ノートのマス目への配慮。3種類のマス目のプリントを用意し、学級の児童全員に自分が一番書きやすい大きさのマス目を選ばせる。
- 185** 文字を練習する際、言葉による意味づけを行う。記憶するときの手助けにする。
- 186** 漢字の構成要素(へんやつくり)を色分けして示したり、部首の意味を教えたりする。
- 187** 漢字テストなどでは、大まかに書けていれば正解、または、準正解にする。これは取組への意欲を低下させないためにも必要。
- 188** あらかじめ板書の内容をプリントなどにして渡しておき、手元に置かせる。(176と同じ)
- 189** 何についての作文を書くか、事前に予告しておく。
- 190** 写真など、作文を書くときの手がかりを用意する。

読むことが苦手な子ども

- 191** 読むときに指でなぞらせる。
- 192** 追い読みをたくさんさせる。
- 193** 読み聞かせをする。→文字を読むことの楽しさを経験させる。
- 194** マーカーで、一行ごとにラインを引く。
- 195** 画用紙をあて、読んでいる行だけ見えるようにする。
- 196** スリットをあけた厚紙を使ったり、定規・指を当てたりすることで他の行を見えないようにして読む。
- 197** 文末に印をつける。(文末をとばしたり、自分で変えて読んでしまう児童に対して)
- 198** 分かち書きにする。自分でまとまりのある文章に分解することが難しいので、事前に意味のまとまりで文字を区切り、視覚的にとらえやすくする。
- 199** 漢字の読みに困難があれば、漢字にふりがなをつける。
- 200** 教科書の文字を拡大する。文字サイズは、子どもによって読みやすいサイズがあるため、必ずしも大きな文字にすればよいというものではない。子どもと相談しながら最適なサイズを見つけていく。
- 201** 事前に読むところを伝え、家で練習させる。授業への参加・意欲が高まる。
- 202** 文章に関係のある絵を用意する。視覚的な支援があることで、推測して読むことができる。
- 203** 段落の関係について、絵、写真、図、文字、もしくは実際の動作を利用して理解させる。

204 要点やキーになる言葉や読み間違い言葉などに印をつけて提示する。

205 テストのときに読むことが苦手な子どもに対して問題文を読み聞かせ、内容を伝える。

注意が散りやすい子ども

206 量が多いと難しくなるので、特定の場所に書いた部分だけノートをとる。特定の色の文字だけ書くなどの工夫が必要。

207 見るところ以外を隠したり、線を引いたりしながら説明する。

208 黒板には不必要なものは貼らない。学習内容が明確になる板書を工夫する。(49と同じ)

209 カーテンを閉めるなどして、気が散るものを隠す。(46・48と同じ)

210 「話すよ」と言って話す。(20と同じ)

211 注意が散りやすい子には、「○○さん、いいですか」など、注意を喚起してから話をする。

212 名前を呼んだり、声かけをしたり、目を合わせたりして注意をひきつける。

213 肩に手を乗せるなどの行為の意味を事前に確認した上で、注意を促すために行う。

214 指示するときは近くで行い、必要であれば、肩に手をおいて行う。

215 具体物を見せて、注目させる。

216 座席を教師の近くにする。

217 座席は窓際を避け、一番前にする。他の刺激の影響を非常に受けやすい傾向があるため、できる範囲で調整する。

218 隣の子を、よいお手本になれる子にする。

219 課題のどこから始めるのか、どこまで終わったのかをわかりやすくするために、付箋を付けたり、シールを貼ったりするなどの目印をつける。

220 メモを取るようさせ、メモをなくさないように置き場を決めて確認する。

221 授業で使うノート、教材、文房具など、最低必要なものだけ机の上に用意させる。

222 机の上には、そのとき使うものだけが上がるようにする。(例:音読の時には、教科書だけ等)

223 プリントや教材を整理する箱やかごなどを用意する。

224 課題の手順、作業の終了、約束事、必要な物などについて、文字や絵などでリストを作成し、随時確認できたり、振り返ったりできるようにする。

225 1時間の授業を 1)読む 2)操作する 3)考える 4)書くという一定の流れにし、それぞれの作業を短時間で構成する。(42、116と同じ)

226 1時間の授業の中でいろいろな課題を準備し、それぞれ10分程度取り組むようにする。

227 見通しを持てるようにする。見通しが持てると集中できるという傾向がみられる。どんな内容の物を、どのような方法で、どのくらいの時間をかけて、そして終わったらどうなるのかということを示しその子なりに見通しが持てるように配慮すること。

228 定規やコンパスは使いやすい大きさのもの、目盛りの見やすいものを使用させる。

推論が苦手な子ども

229 視覚的な手がかり、具体物を使って教える。

230 マス目のある用紙を使用し、問題を写したり、計算したりするときの位取りをわかりやすくする。

231 形の特徴や位置の関係など、なるべく言葉で説明を加えるようにする。

姿勢の保持が難しい子ども

232 「ちょこ・ぴた・ぴん」の合図で聞く姿勢を意識させる。(11と同じ)

- 233** 授業の中に、立ったり、座ったりできる時間を作る。(112と同じ)
- 234** 座布団を使用する。
- 235** 正しい姿勢を実感させるために、リラックス寝型姿勢(20秒)→着席姿勢:頭と首と背骨がまっすぐになるように引き上げる(20秒)→注視姿勢(10秒)などの動作をさせる。

衝動的に行動してしまう子ども

- 236** 必ず挙手をし、指名されてから答えるというルールを教える。
- 237** 挙手をせず発言した場合は、「君の発言の番ではない」とルールを再確認する。→ルールを理解していない状態なのに叱責しても効果がない。むしろ「自分の発言を認めてくれない」という不満が残ることにつながりかねない。授業に参加していることや発言の意欲があることなどを認めた上でルールに則って行動することを、その都度指導していく必要がある。毅然とした態度も必要。
- 238** 何度も発言したがる子には、シールを何枚か用意し、そのシールと交換で挙手、発言できるようにする。シールを見ながら、「あと〇回発言できる」ということがわかり、自分で行動をコントロールすることができる。
- 239** 混乱したとき、どうすればいいかをあらかじめ伝える。(困った時は周囲の助けを呼ぶ、かっとしたら、その場を離れるなど)
- 240** 問題行動への対処の仕方などをあらかじめ決めておき、一貫した態度や行動をとる。

離席してしまう子ども

- 241** 座席は窓側を避け、一番前にする。
- 242** 授業中は、黒板だけが見えるように教室前面にカーテンをつける。刺激の調整、掲示物、外の景色、他の子どもの行動などの影響を受けやすいので、なるべく目に入らないようにする必要がある。(46、48、209と同じ)
- 243** 全体に対する指示の場合は、自分に対するものではないと思ってしまう場合があるので、個別に指示するようにする。
- 244** 授業を、読む、考える、操作する、書くというように流れを一定にし、それぞれ一つの作業を短時間で構成する。(225と同じ)
- 245** 休み時間などに十分に体を動かせるようにする。身体を十分に動かしてエネルギーの発散を考えることも重要。
- 246** 立ち上がりそうな時にプリント配布の仕事を手伝ってもらうなど、時には立ち歩きを認める。いつも離席を止めるだけではなく、時には許容することが大切なこともある。
- 247** 立ち上がりそうな時に、校長先生や養護教諭、事務職員などにあらかじめ用意しておいた手紙を届ける等の作業を与える。
- 248** 休憩を入れたり、黒板消しやプリント配りなどの役割を与えたりして、授業を構成する。
- 249** 注目を引くために起こしている「大声を出す、席を離れるなど不適切な行動」については反応しない。

早くできる子ども

(課題が早く終わったら、次のような課題をさせる)

- 250** チャレンジ問題を黒板の隅に書き、解かせる。
- 251** プリントを用意してファイルに綴じておき、いつでも取り出せるようにしておく。できたものは提出する。
- 252** ノートに授業の中で自分が気づいたことや、疑問に思ったことを書き、自分なりにまとめる。
- 253** 授業に関連する新しい問題作りをする。(算数)
- 254** ドリル、ノートなどの直しをする。

- 255 プrintの色塗りをする。
- 256 自分で学習する「すきま」ノートを一冊持たせ、いつも机の中に入れさせておく。時間があるときには、いつでも取り出して、自分で考えた学習をするようにする。
- 257 ミニ先生になって、友達に教えに行く。
- 258 発表する内容を黒板に書かせると、時間のかかる子にはヒントになる。

個別指導について

- 259 問題や宿題の量を子どもに合わせて少なくする。
- 260 提出期間・テスト時間を、長くしたり短くしたりして調節する。
- 261 少人数の授業(ペアやグループ学習など)の時間を設ける。
- 262 補助教員などがある場合には、主指導者と役割を分担して行う。
- 263 放課後の10分間だけ、個別指導タイムを作る。
- 264 一人でテストを解けない子どもには、テストを練習プリントにかえて、前で教える。
- 265 練習問題をしていて、わからないことがあるときは黙って手を挙げさせる。
- 266 机間指導し、ヒントカードを渡す。
- 267 フラッシュカードの計算を、順に言わせ、個別に到達度を把握する。
- 268 本読みの一文テストをして、音読のつまづきを短時間で把握する。
- 269 算数の自力解決中にさいころサインを使って今の状況を示させる。(赤:わからない 黄:考え中 青:OK 1:1こ目 2:2こ目 3:3こ目)
- 270 道具を使うときには、手を添えて使い方を教える。

その他

- 271 言葉の意味を調べるとき、電子辞書の使用を認める。
- 272 テストの解答において許容度をひろげる。(例:漢字のとめ、はねなど)
- 273 教師が発達障がいを理解している。(前提)
- 274 学校全体の問題として取り組み、外部専門家と連携して、計画を立てて取り組む。

E. 子ども同士のつながい

- 275 発達障がいの子どもの行動面、学習面の様子をしっかり記録し、他の子どもとの信頼関係を築いておく→一人ひとりの頑張りや良い所を見逃さず、声をかける。保護者にも良いところを知らせる。
- 276 他の子ども達にその子の特性について理解してもらえるようにくふうして伝える。
- 277 子ども同士がお互いの良さを認めあえる機会を作る。
- 278 ペア学習やグループ学習の時間を効果的に取り入れ、グループを編成する場合にはメンバーに留意する。(課題を持つ子とフォローできる子、よい関係の子を同じ班にする)
- 279 SST(ソーシャルスキルトレーニング)を学級指導や道徳の時間に行う。「挨拶」「ありがとう」「ごめんなさい」「あたたかい言葉がけ」「注意の仕方」「自己主張(アサーショントレーニング)」
- 280 日常から子ども同士で教え合う時間をとる。
- 281 作業するときには、どの子も活躍できるように役割を決める。
- 282 隣同士で、意見を伝えあう活動を入れる。

Ⅱ. 幼稚園保育グループ

1. はじめに

吹田市立幼稚園では、発達障がいと診断された子ども、コミュニケーションの苦手な子ども、不器用な子ども、こだわりのある子どもなど、『困り感』をもつ園児が在園しています。各園では一人ひとりの子どもの特性にあった支援を試行錯誤しながら、子ども達と向き合ってきました。

『困り感』のある子ども達に寄り添った支援をさらに深めるため、平成20年度は、アンケートを実施し、吹田市立幼稚園における支援の情報を収集、整理しました。平成21年度は、アンケート結果をもとに、生活の中での支援方法やわかりやすい環境構成、教師の援助について考え、事例のなかで「どうしてかな」（原因）と「こうしてみればどうかな」（手だて）を紹介した資料集を作成しました。

2. 研究経過

アンケートのまとめ・考察、資料集作成	7回
教育研究大会にむけて	4回
紀要作成	4回

3. 研究方法・研究内容

各園の支援の実態を把握するために、アンケートを実施しました。

(1) アンケートの実施について

- ① 実施時期
第1回 平成20年（2008年）8月
第2回 平成20年（2008年）10月
- ② 対象園
吹田市立幼稚園 16園
- ③ 内容
第1回
 - ・ 本日の園生活の見通し
 - ・ 今月の園生活の見通し
 - ・ 初めてのことに取り組むときの工夫（身辺整理、座り方、お弁当、製作、うた、プールなど）
第2回
 - ・ 手洗い、うがい、歯磨き
 - ・ 衣服の着脱
 - ・ 掃除
 - ・ 手紙の配り方やレターケースの使い方
 - ・ トイレの使い方
 - ・ 健康診断、身体測定
 - ・ 誕生表

④ 結果のまとめの方法

アンケートに出てきた支援方法を分析すると、『困り感』をもつ子どもへの個別支援とクラス全体への支援があることに気付き、その2種類に分類し、整理しました。

(2) 第1回アンケートの結果

子ども達が幼稚園生活に慣れていくための工夫について調査しました。

	項 目	全体支援	個別支援
1	本日の園生活の見通し	1 2	8
2	今月の園生活の見通し	1 3	4
3	身辺整理	5	4
4	弁当	4	0
5	歌	3	0
6	製作	4	4
7	座り方(椅子)	1	4
8	座り方(床)	1 0	3
9	プール	2	4
10	避難訓練	1	0
11	園外保育	1	3
12	大掃除	1	0
13	健診・身体測定	2	1
14	卒園式	3	0

第1回アンケートで出た支援の総数は、14項目97個です。アンケート結果の内容は、P34～P39に載せています。

(3) 第2回アンケートのまとめ

第1回アンケートでの「初めてのことに取り組むときの工夫」については、質問が漠然としていて具体的な回答が得られませんでした。そこで、特に幼児期に大切にしたいと思う基本的な生活習慣を中心に、再度アンケートを実施しました。

	項 目	全体支援	個別支援
1	手洗い	1 2	7
2	うがい	9	4
3	歯磨き	1 1	5
4	トイレの使い方	1 3	7
5	衣服の着脱	1 4	2
6	健康診断・身体測定	1 2	7
7	手紙の配り方やレターケースの使い方	2 3	5
8	誕生表	1 1	2

第2回アンケートで出た支援の総数は、8項目144個です。アンケート結果の内容は、P40～P47に載せています。

(4) 資料集「一人ひとりの『困り感』に寄り添った支援について考える」作成

第2回アンケートを通し、トイレの使い方・うがい・手洗いなどでは掲示物を準備するなど環境構成を工夫する支援は多く見られました。しかし、うがいができるようになるための手だてや、自分で排便の始末ができるようになるための手だてについては回答が少なく、各園でも困っているように感じました。

そこで、アンケートで回答された支援をまとめるとともに、各園が困っている課題への対応についてわかりやすく示した資料集を作成しました。資料集作成にあたっては、「どうしてそうなるのか」という原因を私たちに考え、それに対し「こうしたらいいのではないか」という手だてを調べ、まとめました。

4. おわりに

アンケートをまとめる中で、各園では、子どもの状態や成長に応じて視覚支援を工夫していることがわかりました。視覚支援の良さは、①目で見てわかる ②子どもも教師も見通しをもつことができる ③いつでも確認できる などがあげられると思います。その実践が吹田市立幼稚園では広まり、深まってきていることを実感しました。

また、『困り感』をもつ子どもへの視覚支援の多くは、誰もがわかりやすい支援となっていることに気付きました。しかし、視覚支援はあくまでも一つの支援方法であるので、子どもがどうしてもできないのか、何がどのようにわからないのかという原因を探り、その『困り感』のある子どもにとって、よりわかりやすい手だてを考えていくことも大切であることを再確認しました。

今後は、今回のまとめた結果を全幼稚園に知らせるとともに、小・中学校に発信していきたいと思っています。

第1回アンケート結果

(1) 一日の保育の見通しがもてるようにする支援

	手だて
全体支援	<p>ボードの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホワイトボードに一日の予定の絵カード（絵や文字）を貼り、見て確認できるようにする。 2. 絵カードの内容を伝える。 3. クラス活動（異年齢活動）か同年齢活動かがわかるように表示する。 4. 同年齢活動のときには場所・準備物を表示する。 5. 朝の支度や弁当準備、降園準備などの手順を絵カードで表示する。 6. 終わった項目の絵カードをはずしていく。 <p>時計（掛け時計や絵カードにした時計など）の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 片付けの時間のところに印をつける。 8. 活動の区切りを示す。 9. 弁当のときは、食事を終える時間を示す。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 前日に次の日の活動を話し、安心したり期待をもったりできるようにする。 11. 朝の会などで、一日の流れ・予定を話す。 12. 変更が生じたときは知らせる。
	個別支援

<考察>

- ・ 一日の見通しをもてるようにするために、視覚支援を利用している幼稚園が多くみられた。
- ・ 個人の支援が必要な子どもにとっても、見通しをもつことで、安定した幼稚園生活を送れるようだ。

(2) 月の保育の見通しがもてるようにする支援

手だて	
全体支援	<p>カレンダーの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きなカレンダーに印をし、子ども達と一緒に日にちを数える。 2. カレンダーに絵と文字で書き、行事などを伝える。 3. 夏休み前などは、日めくりカレンダーをめくったり、一日ずつ終わったら印をつけたりする。 4. 当日までの日数、日程が見てわかるようにする。 5. 手作りの布製カレンダーで誕生会がわかるようにする。 6. その日とその月のどのあたりにあるかマークを一日ずつ移動させてわかるようにする。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 月の終わりに来月の行事の予定などを伝え、楽しみにできるようにする。 8. 行事予定を配る時に知らせる。 9. 週初めに予定を伝える。 10. 「あと〇日したら〇〇があるよ」と保育の中で話す。 11. 主な行事のときにどんなことをするのかを教師が話す。 12. 去年の経験を5歳児が話す。 13. 4歳児は特にイメージが湧きにくいので、七夕や運動会などイメージしやすいような絵本を読む。
個別支援	<p>出席ノートの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席ノートを活用し、時間・曜日の流れが意識できるようにする。 2. 出席シールを毎朝貼り、日や曜日、あと〇日で行事があるなど、個々に知ることができるようにする。 3. 行事の日は特別な行事シールを貼る。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 特に配慮を要する子どもには、保護者にも協力してもらい、個別に事前に話す。

<考察>

- ・ 月の見通しについても、視覚支援で知らせていく方法が多く見られた。
- ・ 出席ノートの活用で、月の見通しをもつことができ、安心できる子どももいることがわかった。

(3) 初めてのことに取り組んだ時の工夫

☆身辺整理

	手だて
全体支援	1. 手順を文字や絵カードなど（かばん・コップなど）で示す。 2. 絵を描きながら説明する。（どこに何を入れるなど） 3. 具体的に子どもが分かる言葉で話す。（あっち、こっちなどは使わない） 4. 一つずつ手順を追ってする。（1番は〇〇と順番をつけて話す）全員ができてから次に進む。 5. 5歳児にモデルとなってもらう。
個別支援	1. かごやロッカーに個人のマークシールを貼る。 2. 引き出しやかばんの中の整理はイラストで描いて示す。 3. その子どもの好きな歌を替え歌にして、歌いながらテンポよく支度できるようにする。 4. 自分でどこまでやるか子どもに決めてもらう。できないときは教師に伝える。

☆お弁当

	手だて
全体支援	1. 5歳児が準備する様子を見せる。 2. 4・5歳児をペアにして準備ができるようにする。 3. 手順やお弁当の置き方を絵カードや写真カードを使って説明する。 4. 時計にマークをつけ、食事を終える時間を知らせる。

☆歌

	手だて
全体支援	1. 絵、ペープサート、パネルシアター、紙芝居など、視覚に訴えるわかりやすいものを使って教えたり歌ったりする。 2. 歌をはじめに聴かせて耳になじませる。 3. 歌詞を書いて掲示しておく。

☆製作

	手だて
全体支援	1. 作り方がわかるように途中の過程をいくつか提示する。（絵と文字） 2. 手順を1・2・3と分かりやすく伝える。 3. 完成したものを見せる。 4. 「裏ワザがあるよ」と声をかけたり、はさみを何かに見立てたり、お話仕立てで進めたりしながら、興味をもてるようにする。
個別支援	1. 近くに教えたり、手伝ってくれたりしそうな友達と一緒にグループで活動させる。 2. 担任のそばで話を聞く。 3. 個別にもう一度説明する。 4. 補助の先生が一つ一つおさえながら進めていく。（気がそれないように声をかけたり、体をとんとんしたり、困ったときに自分でできるように援助する）

☆座り方

① 椅子に座る

	手だて
全体支援	1. 自分の場所として安心できるように、椅子にシールを貼る。
個別支援	1. 足が床につかないときは、積み木を足元に置く。 2. 姿勢が保ちにくい子どもには、固定しやすいように肘つきのある椅子を使う。 3. 教師の顔がよく見えるところ（目線の合うところ）に座らせる。 4. 教師の隣りや端など、安定しやすい場所に座らせる。

② 床に座る

	手だて
全体支援	<p>① 話を聞くときや話し合いのとき</p> <p>1. 互いの顔が見えやすいように円形や「コの字形」に座る。</p> <p>2. 教師の近くに集まって座る。</p> <p>3. 4歳児が前、5歳児が後ろに座ることで4歳児が集中しやすくする。</p> <p>4. 発言する子どもは立って発言する。</p> <p>5. 手作りのマイクを持って発言するなどの工夫をして、話をする人に注目させる。</p> <p>6. 教師が発言する子どものそばに行く。</p> <p>7. 発言する子どもは前に出てみんなが見える位置で発言する。</p> <p>② 絵本を見たり聞いたりするとき</p> <p>8. 教師の近くに集まって座る。</p> <p>9. どの子どもからも絵本が見えているかを確認する。</p> <p>③ その他</p> <p>10. 床にビニールテープで形を作ったり、絨毯を敷いたりして、どこに座るかを示す。</p>
個別支援	<p>1. 座る位置をビニールテープで示す。</p> <p>2. 座る位置にマークシールを貼る。</p> <p>3. 座る位置をフープなどで示す。慣れてきたら、子ども自身が好きな場所を選んでフープを置いて座る。保育室から移動するときも、フープなら持って行くことができる利点がある。</p>



☆プール

	手だて
全体支援	1. 着替えなどの手順を絵や写真のカードで示す。 2. シャワーのかかり方（途中の過程）を絵カードで示し、プールのフェンスに貼る。
個別支援	1. 常に声をかけ、次に何をしたらいいか分かるようにする。 2. 次の活動に移れないときは、「10まで数えたら終わろうね。」と声をかける。 3. こわがる場合は無理に入れず、見学したり、プールサイドにビニールプールを置いて水遊びしたりとその子どもに合わせて工夫する。 4. プールに水のないときにも入って、絵の具遊びや掃除をして慣れるようにする。

☆避難訓練

	手だて
全体支援	1. 不安にならないように、練習であることや避難の仕方を具体的に話しておく。

☆園外保育

	手だて
全体支援	1. 事前に、並びっこをしたり、遠足ごっこをしたりする。
個別支援	1. 事前の下見のときにデジカメで撮った写真を子どもに見せる。 2. 園外保育の当日、次の目的地や見るものなどを絵カードや写真で示す。（例、動物園で、次はどんな動物がいるかを示す。） 3. 前もって保護者に行き先を知らせておく。（保護者の判断で、子どもを連れて下見に行く場合がある。）

☆大掃除

	手だて
全体支援	1. 手順が分かりやすいように、絵や文字で書いておく。

☆健診や身体測定

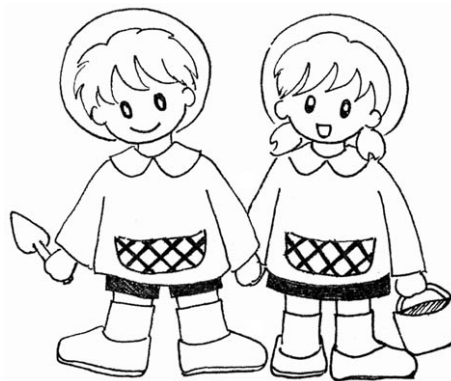
	手だて
全体支援	1. 写真などで手順を示す。 2. 5歳児が先に行い、モデルを示す。
個別支援	1. 保護者に協力してもらい、数日前から家庭でも練習しておいてもらう。

☆卒園式

	手だて
個別支援	1. カードをスケジュール順に並べ、終わったら次へと本人がめくっていく。 2. 座る場所を教師の近くにするなど、その子どもの落ち着く場所を見つける。 3. 4歳児など卒園式の時間、集中できない場合は、いったん保育室に戻り落ち着いてから参加する。

<考察>

- ・「初めてのことに対する支援」ということでアンケートをとったが、内容が広がりすぎて、漠然とした結果になってしまった。もう少し、ポイントを絞ったアンケート内容にするべきであった。



第2回アンケート結果

(1) 手洗い

	手だて
全体支援	<p>水を出す・止める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水の出し方、止め方や必要な水の量を伝える。 2. 水を出しっぱなしにしないという約束を決めておく。 <p>手を洗う</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 手のひら、手の甲、指の間、手首、爪など洗い方を具体的に伝える。 4. プッシュタイプの液体せっけんを使用する。 5. プッシュ式の石鹸は押す回数を1回と決めておく。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 手洗いの仕方、手順を絵カードで表示する。 7. 保健ニュース（写真で分かりやすいもの）などを掲示する。 8. 行うタイミングを日々のスケジュールの中に入れる。 9. 眼科医及び養護教諭、小学校の栄養士さんによる手洗い指導をする。（ビデオ、手洗いの歌） 10. 歌、ペープサートなどを使って指導した後、ペープサートなどは子どもたちが使えるようにしておく。 11. 時々まねっこ遊びをして確認する。 12. 外から帰った時、運動後、食事前には、声かけをする。
個人支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別に声をかける。 2. 一緒にする。 3. やって見せる。 4. 手洗いの仕方の絵カードを見るよう促す。 5. 水から離れられない子どもには横につき、次にする動作を伝える。 6. 数を数えて終了できるようにする。 7. ハンカチの絵などに興味をもたせ、気持ちを切り替える。

< 考察 >

- ・ 手洗いひとつ取り上げても、細かいルールがたくさんある。
- ・ ポイントを伝えながら子どもたちに楽しく正しく習慣づけるために視覚支援を中心に指導している園が多い。
- ・ 視覚支援や歌を利用することで、水遊びになってしまわないようにできるのではないか。

(2) うがい

	手だて
全体支援	<p>水を出す・止める</p> <ol style="list-style-type: none">1. 水の出し方、止め方や必要な水の量を伝える。2. 水を出しっぱなしにしないという約束を決めておく。 <p>うがいをする</p> <ol style="list-style-type: none">3. しっかり上を向いてできるように、天井に絵を貼ったり、モビールを吊るしたりする。4. がらがらうがいとぶくぶくうがいの違いやその理由を機会をとらえて、その都度伝える。5. うがいはコップを使ってする。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none">6. 保健ニュース（写真で分かりやすいもの）などを掲示する。7. 行うタイミングを日々のスケジュールの中に入れて、必要に応じて声をかけたりする。8. 歌、ペープサートなどを使って導入後、自分で動かしていいように手元に置いておく。9. 時々まねっこ遊びをして確認する。
個人支援	<ol style="list-style-type: none">1. 個別に声をかけ、一緒にしたりやってみせたりする。2. 水から離れられない子どもには横につき、次にする動作を伝える。3. 数を数えて終了できるようにする。4. ハンカチの絵などに興味をもたせ、気持ちを切り替える。

< 考察 >

- ・ うがいを習慣づけるための支援は多くみられるが、うがい自体ができない子どもに対しての支援が少なかった。

(3) 歯磨き

	手だて
全体支援	<p>水を出す・止める</p> <ol style="list-style-type: none">1. 水の出し方、止め方や必要な水の量を伝える。2. 水を出しっぱなしにしないという約束を決めておく。 <p>歯磨きをする</p> <ol style="list-style-type: none">3. 前歯、奥歯など具体的に磨き方を伝える。4. 食後は声かけをし、教師も一緒に歯磨きをする。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none">5. 保健ニュース（写真で分かりやすいもの）などを掲示する。6. 行うタイミングを日々のスケジュールの中に入れる。7. 歯の模型を使って、歯磨き指導をする。8. 年に一度、歯科医や歯科衛生士により親子で歯磨き指導を受ける。9. 絵本や歌などで歯の大切さを知らせる。10. 口の中が見えやすいように鏡を設置する。11. 歯を磨く時間の目安として、砂時計を利用する。
個人支援	<ol style="list-style-type: none">1. 個別に声をかける。2. 一緒にする。3. 歯磨きをしているのを見せる。4. 歯磨きを始めた直後は、個別に見て磨き残しがある場合はその場所を知らせ、再度磨くよう指導する。5. 歯ブラシを口に入れたまま移動することが危険であることを話し、見かけたら注意する。

< 考察 >

- ・ 園医からの歯磨き指導を受けている園が多い。
- ・ 鏡の設置や砂時計の利用などの環境の工夫が見られた。



(4) トイレ

手だて	
全体支援	<p>スリッパの履き替え</p> <ol style="list-style-type: none"> スリッパにマーク、数字などを書いて揃えられるようにする。 色分けして揃えられるようにする。 上靴を脱ぐ場所に上靴の絵をつけたり、カラーテープで貼ったりする。 <p>トイレトペーパーの使い方</p> <ol style="list-style-type: none"> ペーパーは、“くるくる〇回巻く”というルールを作り、伝える。 <p>和式・洋式・男子トイレの使い方</p> <ol style="list-style-type: none"> 用具入れとトイレの扉を間違えないようにトイレの表示を扉に貼る。 一日に数回全員にトイレに行くように声かけをする。 入園当初は、教師も一緒にトイレに行って指導する。 絵カードを見せて指導する。 高い便器（洋式）には踏み台を置く。 冬は便器が冷たいのでシール式カバーをつける。 手順を絵に描いて掲示する。 和式トイレでは、足を置くところを表示する。 座り方を絵にして貼る。
個人支援	<ol style="list-style-type: none"> スリッパが履きづらい子どもは、自分で便器まで行けるよう、上靴でマットの上を歩けるようにしている。 気づいたときに、その都度指導する。 大便が自分で始末できない子どもには、拭くのを手伝う。 拭くところを見届け、あとで不十分なところを拭く。 その時の様子を保護者に伝える。 大小便にかかわらず、ついていくと嫌がることが多いので、遠目で用便をしている様子を確認する。 必要に応じて、保護者に話をして家庭でも指導してもらうようにする。

<考察>

- ・ 子どもの姿も扉の向こうで見ることができにくいいため、支援が難しいようだ。
- ・ どの幼稚園でも、それぞれのトイレ環境に応じてスリッパを置く場所やスリッパの大きさ・左右がわかりやすいように工夫している。
- ・ 各家庭と幼稚園のトイレが違い、支援が難しいので家庭との連携が大切である。

(5) 衣服の着脱

	手だて
全体支援	<p>脱ぐ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師がそばにつき、どこを持つかなどポイントを伝える。 2. 一緒に行う。 3. 手順を指導する。(腕を曲げて、袖を引っ張って脱ぐ。手→手→頭 の順に脱ぐ) <p>着る</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 前後の判断は、前の模様が見えないように置いて、そのまま持ち上げてできることを伝える。 <p>たたむ (置く、かごに入れるなど)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. たたみ方の手順の絵カード (写真) を提示する。 6. たたみ終わった絵をみせる。 7. かごに実際に直したものをみせる。 8. 自分のものがわかるように、名前の貼ったかごの中に入れる。 9. 名前を書いたビニール袋を持ってきて、ドアのところのウォールポケットに絶えず2~3枚入れておく。 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 脱ぐ→着る の流れを身につける。 11. 5歳児にモデルになってもらう。 12. 遊びであるいは汗で濡れた服は、自分で気持ち悪さを感じ、着替えられるように指導する。 13. 教師が濡れていることに気づいた時は、着替えるように声をかける。 14. 園で着替えた時は、保護者に伝える。
個人支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一人で、着脱がしやすいように、首周りの柔らかいものや、伸縮性のあるものにしてもらう。 2. どうすれば脱ぎ着しやすいか個別に対応している。

<考察>

- ・ 手順を絵カードで示したり、前後をわかりやすくするために印を付けたりするとなどの工夫が見られる。
- ・ 幼稚園と家庭とのやり方と違うので、連携して行う方が効果的である。
- ・ 異年齢でのかかわりを考えて支援している園が多い。4歳児にとっては5歳児が実際に着脱する姿を見ることができ、わかりやすいようだ。

(6) 健康診断・身体測定

	手だて
全体支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健診や身体測定の手順を話す。 2. 絵に描いて提示したりしている。(①・・・、②・・・というように) 3. 不安にならないように明るい雰囲気で行う。 4. 歌や絵本や紙芝居・人形などを利用し、安心できるようにする。 5. 身体測定は一人ひとりのカードを作り、それを持って受ける。 6. 体重計の乗る位置をビニールテープで示す。 7. 着替えのときの個人かごを用意する。 8. 着替えの手順を順序よく実際にやって見せて、目で見てわかるようにする。 9. 友だち(年長児)のしている様子を見せてイメージをもたせ、安心して受けることができるようにする。 10. 前もってどんなことをするのか丁寧に伝えておく。 11. 保育室で受診前に口を開けたり、器具を見せたりする。 12. 前のクラスの様子を見学に行く。
個人支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要なときは家庭と連携し、話してもらう。 2. 個々の状況によって、一斉にできないときは、個別に行ったりする。 3. 服を脱ぎたがらない場合は、服を着たまま測り、服の重量を差し引いて計測している。 4. 教師と一緒に入ってする。 5. アトピーがひどく、皮膚の状態を気にしている子どもについては、別室にて、人目につかないところで測定を行っている。 6. その子どもに応じて診察の順番を1番にしたり、最後にしたりする。 7. 医師が場所を保育室に移動して行う。

< 考察 >

- ・ 身体測定や健康診断は異年齢での関わりを考えて支援している園が多い。実際に見ることできわかりやすい。
- ・ 特に健康診断は不安が多く、個別に一人ひとりの気持ちに寄り添って支援している様子が見えがえる。
- ・ 視覚支援をたくさん用い、工夫している園が多い。

(7) 手紙の配り方やレターケースの使い方

	手だて
全 体 支 援	手紙があるかないかを知らせる手だて <ol style="list-style-type: none">1. ホワイトボードに「てがみ〇枚」と示す。2. 1日のスケジュールに手紙のあるときは〇と示す。3. 手紙マークやカードで示す。4. レターケース入れのかごに手紙を入れて見えるようにしておく。
	配り方 <ol style="list-style-type: none">5. レターケースに教師が手紙を入れておく。6. 手紙の入ったレターケースを一人ずつ配る。7. 担任が一人ずつに手紙を配る。8. 担任が名前を呼んで子どもが手紙をとりにくる。9. 机の上においてある手紙を子どもがとりにくる。10. 幼稚園に慣れてきたら、当番（年長児）に配ってもらう。11. グループの代表の子どもがとりにきて、グループの友達に配る。12. 円形に座り、「お隣へ」と言いながら、順に手紙を回し、全員が手紙をもらうまでする。13. 「すくすくだより」など自分の名前やシールの貼ってあるものは自分でとりにくる。14. クラスに壁掛け用タイプの手紙ポスト（レターラック）を置き、名前シールを貼り、手紙を入れている。降園準備をするときに各自のラックから手紙を取り出し、レターケースに入れて持ち帰る。
	手紙を折る <ol style="list-style-type: none">15. 入園当初は、教師が折っておく。16. 5歳児は自分で折る。4歳児も慣れてきたら自分で折るようにさせる。17. B4など大きい場合は半分だけ教師が折っておき、残りは子どもが折る。18. 手紙の枚数が多いときは、教師が折っておく。19. 3学期には当番が手紙を折る。
	レターケースについて <ol style="list-style-type: none">20. レターケースには名前とマークシールを表示する。（年齢別、クラス別に名前やマークを張る色を変えている）21. 登園後、レターケース入れにレターケースを入れる。手紙がなくても降園準備のときに配る。 ＜配り方＞…机に並べておいて子どもがとりにくる。 当番が配る。22. 手紙があるときにだけ持ち帰る。手紙がないときは園に保管している。

	<p>その他</p> <p>23. 年長児の当番が職員室に手紙をとりにくる。</p>
個人支援	<p>1. 降園準備の手順を絵カードなどで示す。</p> <p>2. 手紙があるときには、手紙のマークやカードを示す。</p> <p>3. 「手紙があるよ。」のことばでレターケースを準備できるようにする。</p> <p>4. 手紙を折るときは、教師がそばについてレターケースに入る大きさに折るように声をかける。</p> <p>5. 教師が手を添えて一緒に折る。</p>

<考察>

- ・手紙を折ること、配ることの中に、いろいろな要素（手先の操作、数への関心など）が含まれている。
- ・各園、段階を追って工夫して行っているのがわかった。
- ・いろいろな支援の方法があり、どの方法がクラスの子どもの実態に合っているのかを、検討して行っていくことが望ましい。

(8) 誕生表

	<p>手だて</p>
全体支援	<p>1. どの子どもが何月生まれかがすぐに分かるような構成にする。</p> <p>2. 保育室のよく見えるところに貼り出す。</p> <p>3. 全園児の誕生日がわかるように誕生表を作り、みんなが見える場所に貼る。</p> <p>4. 1年間貼っている。</p> <p>5. 誕生月だけの分を貼ったり、1学期ごとの分を貼ったりし、1年間同じ壁面でないように工夫する。</p> <p>6. 終わった月にしるしをし、次の月がわかるようにしておく。</p> <p>7. 1年間の流れが分かるように月を円状に並べて掲示する。誕生月の子どもは円の真ん中に掲示する</p> <p>8. 誕生月になると、冠や季節の花や果物、お楽しみの製作物などが加わるという工夫をし、誕生児が誰かがわかるようにする。</p> <p>季節感が出るように季節のモチーフと一緒に記入し、掲示する。</p> <p>9. 個人のマークシールをつけて貼り出す。</p> <p>10. 写真を貼って、顔と名前をわかりやすくする。</p> <p>11. 4歳児と5歳児が分かるように、名前を書く紙の色を変えたりする。</p>
個人支援	<p>1. 気が散る子どもがいるときは、子どもの視野に入らないような場所に誕生表を貼る。</p> <p>2. 自分の誕生月が待てない子どもには、後どれくらいで誕生月が来るのか絵カードで示し、待てるようにする。</p>

<考察>

- ・ 担任の思いでいろいろな誕生表があることがわかった。誕生表への思いをもって作ることが大切だと感じた。
- ・ 4, 5歳児の違いがわかるようにしたり、季節感をもたせたりなどの工夫が見られる。

一人ひとりの『困り感』に 寄り添った 支援について考える



平成22年（2010年） 3月

吹田市教育センター

発達理解研究 幼稚園保育グループ

目次

1. 服を見ただけでは、前後・裏表がわからない	P1
2. 着替えるのに時間がかかる	P2
3. 手洗いが水遊びになってしまっ 手洗いのうた	P3 P4
4. ぶくぶく・がらがらがいの仕方がわからない	P5
5. 和式トイレが使えない	P7
6. トイレットペーパーの扱い方がわからない	P8
7. 箸の使い方がわからない	P9
8. 食べこぼしが多い	P11

服を見ただけでは、前後・裏表がわからない

どうしてかな

見分ける力が弱い。
手指の動きなど運動面でのしんどさがある。

こうしてみればどうかな

- 前後がわかるように印をつける。
 - * 服の裾
 - * 首のところ など
 - ★ その子どもにわかりやすいところにマークをつける。
- 表裏がわかるように印をつける。
 - * 手の感触でわかるように、服の後ろの裾にチロリアンテープのようなものを縫い付けると凸凹があってわかりやすい。
 - * 服のサイドの縫い目などに色をつける。
- 手順を知らせる。
 - * 手順を書いた絵カードを使う。



① 裾を開いて片腕を通す。



② 両腕を通す。



③ 頭を入れる。



④ 裾を引っ張る。

着替えるのに時間がかかる

どうしてかな

着替えに集中できず、気が散ってしまう。
脱ぐときに裏返ってしまう。

こうしてみればどうかな

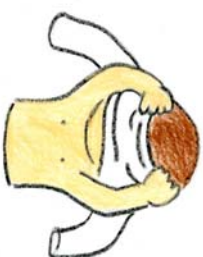
- 気持ち散らないように、環境を整備する。
 - * 部屋の隅や区切りのある場所で着替える。
 - * カーテンなどで、見えない場所を作って着替える。
 - * 保育室に反だちがいなくなった後で着替える。
- 脱ぎ方の手順を知らせる。
 - * 手順を書いた絵カードを使う。



① 片方の手で、反対側の袖口をひっぱったり、腕を袖から抜く。



② ひじを曲げながら抜く。



③ 首のあたりにたまった襟を引っ張りながら、少しずつあけて脱ぐ。

手洗いか水遊びになっちゃおう

どうしてかな

水や石鹸の感触（水の流れ、音、においなど）が好き
 水を触ると安心する
 手洗いの目的がわからない

こうしてみればどうか

- 手順や終わるタイミングを知らせる
 - * 手洗いの歌を歌いながら手を洗う（次のページ参照）
 - * 数を数える
 - * 近くにおいて次の動作をひとつひとつ伝える
 - * ハンカチの柄など、違うことに気持ちを向け、気持ちを切り替える
 - * 「手がきれいになって気持ちいいね」などと褒める
- 好きな遊びのときに十分に感触遊びを楽しむ
 - * 色水シャース、どろんこ遊び、フライングペイントフライングなど
- 安心感をもたせる
 - * 子どもの状態によっては、安心感をもてるように水遊びを見守り、少しずつ手洗いの習慣が身に付くようにする
 - * 水遊び以外に安定できることを見つける
- 手洗いの目的を知らせる
 - * 絵本やペープサートなど視覚的にわかりやすい教材を用いて、手洗いの大切さを知らせていく

手洗いのうた



腕まぐり（腕まぐり）



水ぬらし（水ぬらし）
水止めて（水止めて）



あわあわ石鹸（あわあわ石鹸）



でのひら ひらひらひらひら～
手の甲 するするするする～



手を組んで（手を組んで）



親指ぐるりん（親指ぐるりん）



つめジュウジュウジュウ
（つめジュウジュウジュウ）



手首ぐるりん（手首ぐるりん）



しっかひ流して～



水止めて



ふいたら



ピッカピカ（おしまい）

* 「もりのくまさん」のメロディーで、歌ってみましょう。

舌<舌>からからうかいの仕方がわからない

どうしてかな

家庭で教えられていない。
口を開められないので、中に水を含めない。
水を口の中で動かせない。
水を吐き出せない。
息を止められない。

どうしてみればどうか

- 家庭と連携する。
 - * 幼稚園のうかいの仕方を伝え、家庭でも同じやり方でもらう。
- 口周辺の筋肉を使った遊びなどを取り入れる。
 - * 「バビブバボ」という発音をたくさんさせる。
 - * いらめっこなどの遊びを通して、口を開けて頬をふくらます練習をする。
 - * 熱いものを「ふー、ふー。」吹く。シャボン玉を吹く。
 - * ストローで吸う。種類をツルツルする。
 - * ペロペロなめる。
 - * よくかんで食べる。
- うかいの仕方を教える。
 - ① 水を飲んで、吐き出してみよう。
 - * 少量の水から始める。
 - * 下を向いて吐き出す。
 - * 「ペーッ」と言って吐き出す。
 - ② 水を飲んで、口を動かしてみよう。

<舌>舌<舌>うかい>

- * やや下向いて、頬を揺らせる。
- * 教師が実際に目の前でやってみる。
- * 鏡を見ながらする。

<からからうかい>

- * はじめは水を含まず、上を向いて「か〜。」という。
- * 口に水を含んだ状態で、上を向いて「か〜。」という。
- * 天井に絵カードなどを貼り、上を向く目印にする。



和式トイレが使えない

どうしてかな

和式トイレの経験がない。
足の筋肉の未発達。
衣服の操作の技能が未熟。

どうしてみればどうか

- 和式トイレの使い方を教える。
 - * 便器の前後を教える。
 - * 子どもが安心してトイレに入れるように、教師が誘導して便器をまだぎしゃがませる。(初めのうちは、パンツを脱いで行ったほうがよい)
 - * 後方から足を開いて便器後方になって、前に進む。但し、トイレの後ろのスペースによる。



- * 足の位置を足形などを描いてわかりやすくする。
 - * 手すりを付ける。
 - * 自分でまだげようになったら、パンツをはいたまままだぎ、膝までパンツをおろしてしゃがむ。
- 便器にしゃがんだときにパンツを持つ方法を教える。
 - * 膝のあたりでパンツとズボンを持つ。



- おしりをつけないでしゃがんだ遊び活動を取り入れる。(例えば、砂場遊び、だんご作り、草花摘み、タンゴムシ探し、アヒルになって遊ぶ、雑巾がけなど)
- 外で体を動かして遊ぶ。

トイレットペーパーの扱い方がわからない

どうしてかな

家庭で教えられていない。
紙を上手に切ることができない。
紙の量がわからない。
肛門の位置がわからない。

どうしてみればどうか

- 家庭と連携する。
 - * 幼稚園のトイレットペーパーの扱い方を伝え、家庭でも同じやり方でしてもらおう。
- トイレットペーパーの扱い方を教える。
 - * 保育室にペーパーホルダーをつけ、日常でも使えるようにする。
 - * 教師も、保育中は子ども用のトイレを使う。



- ① 右手でペーパーを10～12cm くらい引き出す。
- ② 引き出したペーパーを左右の手で1回折る。
- ③ さらにぐるぐる巻くように2回折る。



- ④ 折ったペーパーを左右の手でただむ。
- ⑤ たんだんだペーパーを右手でつかみ、左手でホルダーをしっかりとおさえる。
- ⑥ 右手をねじるようにしてペーパーを切る。

- 肛門の位置を教える。
 - * 手を添えて一緒に拭く。
 - * おしりの拭き方を教える。(前→後)

箸の使い方から知らない

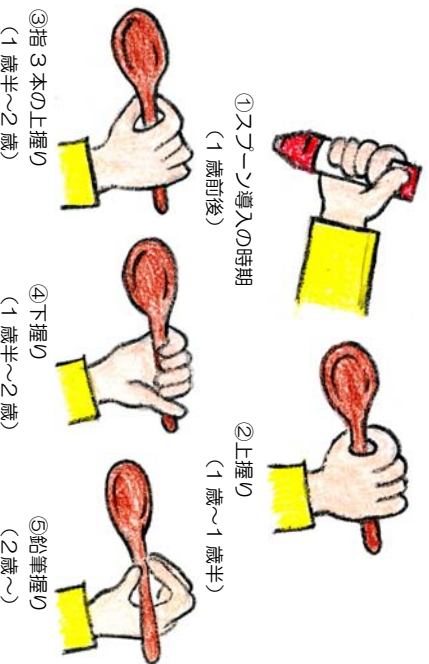
どうしてかな

家庭で食べさせてもらっている。
手先が未発達。
箸の大きさが、その子にあっていない。
(手首から中指の先+3cmがベストな大きさ)



どうしてみればどうかな

- 家庭と連携する。
- * どの程度スプーンがうまく使えているか確認する。
- * 焦らずにスプーンを持ち方からしっかりと教える。



- * 使いやすいスプーンを使う。
- * 好きなキャラクターのスプーンを使う。(気が散らない程度のもの)

- * 手を添えて教える。(手を添える場所：手首⇒ひじ)
- * 箸の色を1本ずつ違う色にして、動かす方の箸を意識させる。



* 輪ゴムを指につけて練習する。



- * 「上」「下」「上」「下」という声掛けにあわせ箸先を上下に動かす練習をする。
- * 指先を使う遊びを取り入れる。
(洗濯ばさみ、動物ボタン、ままごと遊び、手遊び、つまむ遊び等)
- * 右利きの子は右に、左利きの子は向かい合わせに座って正面からサポートする。
(教師が右利きの場合)

食べほしが多い

どうしてかな

お箸を正しく使えていない。
姿勢が悪い。
集中力がない。
一口分の量が多すぎる。
ひじや腕全体を動かす力が未発達。
口の周辺の筋力が弱い。
机やいすの高さがあっていない。



こうしてみればどうか

- お箸のページ参照
- 机やいすの高さの調整をする。
(例：脚にソフト積み木を置いたり、座布団を椅子に敷いたりする)
- 正しく座れているか確認する。
- 落ち着いて食べられる環境づくりをする。
- お弁当箱に手を添えたり、持って食べるよう声をかける。
- その子に合った一口分の量を具体的に知らせる。(例：ミートボール1個分)
- 背筋、腹筋を使う運動をする。
- 吹き戻し、ストロー、シャボン玉で遊びながら口の周辺の筋肉を使う運動をする。
- 重い荷物を持ったり、固定遊具で遊んだりしなから腕を鍛える。



発達理解研究 幼稚園保育グループ

相原 修子
横山 明美
寺本 一恵
今村 紗矢香
保氣口 明子
太田 渚

Ⅲ. 巧緻運動グループ

1. はじめに

今日、子どもたちを取り巻く生活環境の変化で、「運動が苦手な子ども」が増えているといわれます。体を大きく動かす運動はもちろんですが、手先を使って行う巧緻運動の苦手さも指摘されています。

学校では、学習活動において種々の道具を使います。手先の巧緻性に課題をもつ児童は、用具が思うように使えず不便さを感じたり、活動が円滑に進まないため学習への意欲が低下したりすることがあります。

そこで巧緻運動グループでは、授業でよく用いる用具を取り上げ、子どもが感じる「困り感」とその観察ポイント、巧緻運動困難の原因、具体的な支援方法について検討することとしました。次の4つについての研究報告をします。

- ・ 座位姿勢について
- ・ 導入期のリコーダー
- ・ 鉛筆について
- ・ コンパスについて

2. 座位姿勢について

(1) はじめに

この研究での座位姿勢とは通常の授業で使用する背もたれのある椅子で文字を書いている姿勢とします。

姿勢が保ちにくいとどのような課題が生じるのでしょうか。

- ① 作業中、腰や肩に余分な力が入り、細かい作業がしにくい
- ② 手が自由に使いにくい
- ③ 両手の協応動作がしにくい
- ④ 注意が集中しにくい
- ⑤ 持続して黒板を見づらい

以上の5つが考えられます。

姿勢が保ちにくいとは体幹が保持しにくいことを指します。体幹とは体の軸となる部分で、肩甲骨、肋骨、背骨、骨盤と腹筋、背筋、胸筋、足の筋肉を含む胴体の部分を指します。体幹が保持しにくいと前後左右のバランスをとることが難しくなります。

気になる座り方をする子どもたちは椅子の背もたれや机にもたれて姿勢を保持しています。椅子の端に座り臀部から強い感覚を取り込んでバランスをとっています。これらの座り方は“本人なりに座ることを保持するために適応している”座り方と言えます。したがって声かけして、すぐ良くなるものではありません。

(2) 気になる座り方のタイプ

①浅座り



椅子の角や端に座り、お尻の位置情報を取り込んでいます。
座面の端は、触覚・圧覚の違いがわかりやすいので、体の位置がはっきりするのです。
強い感覚入力により、体幹の筋緊張も高めています。

②足を大きく開いて座る



腹筋や内股の筋肉の働きが弱いことが考えられます。
そのために腰が曲がり足も開きます。
支持面が広がり、腰が後ろにもたれやすくなります。

③片座り



お尻からの感覚入力に左右差があったり、足の支えの力が強いほうに偏ったり、見やすい半側空間に姿勢がずれやすい状態です。

④片足を立てる



前に体が崩れやすく、足を立てることで体幹を保持しやすくなります。
足は体が前傾するのをストップする役目をしています。

⑤おしりの下に足をいれる、あぐら座り



臀部と足全体から支持感覚が入り、支持面が広がりやすく安定しやすくなります。
足を組むことで座位姿勢が崩れにくくなります。しかし、立ち上がりにくくもなります。

⑥背もたれに足をかける



両ひじに体重をかけ、両手と頭を固定し、狭い空間で集中する姿勢をとります。
(ゲーム姿勢)

小型ゲーム機に夢中になっている子どもの姿勢と同じです。

生後3ヶ月頃の赤ちゃんを腹ばいにした時の姿勢とも同じです。

頭や体を支えるのに両手で支える癖がついてしまっています。視力が低下してもこの姿勢になりやすいです。

⑦椅子をゆらゆらさせる



いらいらする時、ゆらゆら感覚が落ち着きます。

(興奮を抑制するように無意識に動かします)

逆にぼーっとしたとき、集中したいときに覚醒を高めます。

⑧上体が前にかがむ、ひじをつく、うつぶせになる、背もたれにもたれる



体を起こしておくのと疲れる、眠くなる、内容がわからない、気分が沈んでいる、体調がよくないなど考えられます。

⑨上体が利き腕側によりかかる



体の支えが不十分で、利き腕によりかかりながら書いています。

支えながら書くので、筆圧が高くなり、点やはらいなどの力の調節が難しくなります。

線の方向や文字の並びをコントロールしにくくなります。

⑩上体が利き腕側と反対側によりかかる



利き手を使いやすくするため、反対側へ大きく体を傾けて支えています。体の中間位置での保持は難しく一方に傾いてしまいます。文字や形や線の方向が崩れやすいです。

(3) 支援方法

ア：子どもに直接働きかける方法

- ・ 自分はどんな風に座っているか、書いて確かめます。
- ・ 毎日継続して練習する方が効果的です。

(a) 好ましい姿勢を子どもに知らせます

- ・ 「ペタン」「グー」「ピン」と声かけをします。

足の裏を床にペタンとつけます



おへそと机の間をグー1つ分あけます



背中をまっすぐに伸ばします。



(b) 机と椅子の高さを調整します

- ・ 子どもが作業しやすい机と椅子の高さを調べます。
- ・ 椅子の高さを決めます。

背もたれに軽く触れて椅子に腰掛け、足の裏が床にびたっとつく高さに調節します。

・机の高さを決めます。

椅子を調整して座り、背筋を軽く伸ばし、脇を軽く横に広げ、肘を90度に曲げた高さ
に調整します。両手が体の前にでて視野に入る姿勢にします。

(c) 体幹保持を高める遊びや課題を行います。

- ・山のぼり、ハイキング、フィールドアスレチックなどの全身を使う遊び。
- ・トンネルくぐりや雑巾がけなど四つ這いの動き
- ・スクワットやすもうなど下半身を鍛える動き
- ・椅子や机など重い物を運ぶ、掲示物をはる、窓ふきなどの関節をささえる動き
- ・スクーターボードを使い体の筋緊張を高める遊び
- ・水泳の伏し浮きなど左右のバランスを調整する動き

イ：環境を替えて成功しやすくする代替方法

- ・クッション・カットアウトテーブル・ひじガード・すべりどめシート
- ・はらまき・どこでも斜面台 などがあります。

3. 導入期のリコーダー（運動機能を中心として）

(1) はじめに

リコーダーを演奏するには、「持つ・穴を押さえる・吹く」の三つの動きを同時にします。
更に、タンギングや読譜も加わってきます。そのため、運動がうまくいかない児童にとって
は、負担が大きいのです。そこで、リコーダーがうまく吹けないのはどこに原因があり、
どうすれば抵抗を減らせるのかを運動機能を中心として探ってみました。

(2) 研究内容

【児童の困難】とされる点を6点と【教師の疑問】を3点を考えました。

【児童の困難】

- ①左右を間違う
- ②息のコントロールがうまくいかない
- ③穴がふさがらない
- ④タンギングができない
- ⑤指の第一関節が反る
- ⑥左手の薬指が難しい（ソの音）

【教師の疑問】

- ①運指で、指を下に下ろすのはやりやすく（シ→ラ→ソ）、上げる方（ソ→ラ→シ）
が難しいのはなぜ？
- ②よだれが多く出るのはなぜ？
- ③新しい音を習う順番は、シラソドレの順番でよいのか？

ア：児童の困難

要因を探り、手立てを考えてみました。

①左右を間違ふ

要因として、「左・右」という言葉と、イメージする手が合っていないことや、左右の利き手の確立ができていないことが考えられます。

手立てとして、一つ目は、リコーダーの下を右手で持つことを繰り返し練習します。これによって右手で持つことを意識させます。左手を上へ上げたり前へ出したりを、ゲームのようにすると、楽しく練習できます。二つ目は、手に目印をつけ左手がどちらか、わかりやすくします。事務用のリング型の指サックが役に立ちます。(写真1) 左手の指にはめておくと「ゴムの指輪をはめている方が上」とか「きれいな色がついている手が上」とか声かけをすると、すぐに直そうとします。



写真 1

②息のコントロールがうまくいかない

要因として、腹筋や胸の筋力の高め方や抜き方がわからない(徐々に息を入れる・抜く)ことや、体のどこ(部位)を使うのか具体的にわからないことが考えられます。

手立てとして、息をコントロールする遊びをします。シャボン玉を大きく膨らましたり、ストローで長くブクブク吹いたり、くるくる回のおもちゃを吹いたり、ティッシュを切りゆっくりに吹いたりします。

③穴がふさがらない

要因として考えられるのは、リコーダーを持つことに注意が向き指にまで注意する余裕がない、指が開かない、穴をふさぐ力が持続しない、穴を押さえる指の位置が、先端すぎてふさがらないなどです。

手立てとして、一つ目の持つことに困難がある子どもは、持つことへの手助けが必要です。手首が弱いので鍛える運動をします。手首を鍛えるには、スクーターボード、手押し車・腕立て伏せ・ソフトボール投げなどを体育の時間などに、意識的に取り入れていくといいでしょう。また、補助具を用いて、持つことへの負担を減らすこともできます。箱を切り、リコーダーについている指かけに引っ掛け、スタンドにリコーダーを立てます。(写真2)

二つ目の指が開かないのは、リコーダーを吹く態勢は「腕を持ち上げる」と、「指を開く筋肉を使うこと」の両方が同時に要求されるので難しいのです。

手立てとして、指の体操や指遊びが考えられます。指人形を利用して、音で指を動かすゲ



写真 2

ームができそうです。あやとりは、太めの糸を用い、指と指の間を広げる「ほうき」「手品」などをすると、指を開く筋肉が鍛えられます。指遊びでミミズの体操（曲げる伸ばす曲げる伸ばす）とか、キツネなど、少しの時間で鍛えることも出来ます。

三つ目に、穴をふさぐ力が持続しない場合は、指の感触で識別しやすい素材のシールを穴の周りに貼ります。（写真3）上の二つのシールの素材は、紙です。上から三番目の素材は、やす



写真3

りのようにざらざらして厚みもあります。上の白いのは、事務用のパンチ穴補強シールです。穴の大きさは、リコーダーの穴と同じ大きさになっているので貼るだけです。二番目は、色つきのシールにパンチで穴を空けたものです。音の違いを、見て分かるように一番上と二番目は、色を変えています。三番目は、屋外用の滑り止め防止シールです。これらのシールやゴムの指サックは、100円均一の店で売っています。

次の支援は、ゴムで穴をふさぐようにします。（写真4）自転車のタイヤチューブを切り、穴の横にセロテープでとめます。子どもは、ゴムを上から押さえるだけで、穴をしっかりとふさぐことができます。ゴムの上に色別シール（上からオレンジ・黄緑・ピンク）を貼ると、音がわかりやすくなります。



写真4

四つ目の要因として、穴を押さえる位置が指の先端すぎてふさげない時は、指のどの場所でふさぐのかを目で確認させるようにします。リコーダーに指を強く押しつけると、指に跡形がつくのでそれを見せます。また、子どもの指の押さえる場所にシールを貼ります。（写真5）



写真5

④タンギングができない

「た行」の発音ができない子は、舌の動きがスムーズにできにくい（トゥと言えない）ため、タンギングもうまくできないと考えられます。

手立ては、舌がどこにつくのかを確認（上の歯の裏に煎餅をつける）したり、舌の体操（舌を回す）、舌を閉じて頬をつついて（2人で）遊ぶことなどが考えられます。

⑤指の第一関節が反る

要因は、関節を安定させる筋肉や靭帯が弱いので関節が伸びやすいのです。このままだと、力が入りすぎて痛みや肩こりの原因に繋がることも考えられます。

手立てとしては、関節を固定するためテーピングしたり（写真6）、ゴムの指輪をはめたりすることも有効です。

⑥左手の薬指が難しい（ソの音）

要因としては、それぞれの指の関節の曲がり方の角度が違うので（写真7）動きのコントロールをしにくいのです。

手立てとしては、最初は指を見て穴を確認し、後で見ないでできるようにします。また、手の感触だけで穴をふさげるように、ソの音の穴の周りにシールを貼ることもよいでしょう。



イ：教師の疑問

①運指で、指を下に曲げるのは やりやすく（シ→ラ→ソ）、上げる方（ソ→ラ→シ）が難しいのはなぜ？

指を下ろすのは、重力に従い曲げるだけなので力を抜きやすい動きです。反対に、上げる方は、手首や指の重さに打ち勝って一本ずつ力を入れて指を伸ばす動きです。手首や指の重さに対抗して持ち上げる筋力が弱いために難しくなっているのです。また、指を上げる時に二本一緒に上げてしまうのは（ソ→ラシ）、一本ずつ動かす経験不足から起こっています。（発達の順番は、「曲げる」動きの後に「伸ばす」動きが発達します。）

②よだれが多く出るのはなぜ？

集中するあまり唾を飲み込むことを忘れていているのです。指と舌・唇は脳の部位が近接し、一緒に興奮して連合運動になるのです。そんな時は、力が入りすぎないように肩を楽にさせたり、首を動かし緊張を抜いたり、リコーダーをくわえながら、「ごっくんしてごらん」「息をしよう」などの声かけて練習します。

③新しい音を習う順番は、シラソドレの順番でよいのか？

シラソ

指の機能から見ると、三点で保持できるので「ラ」から教え、二点保持の「シ」、そして「ソ」に進む方がよいのです。しかし、「シ」「ラ」「ソ」と指を増やしていく順番の方が音階と指が一致するのでわかりやすいです。

ドレ

（二点ハ音と二点ニ音）

「ド」は、二点で保持するが「レ」は一点なので不安定です。だから、「ド」から先に習う方がよいのです。

シとド は、どちらが先か？

「シ」と「ド」は、どちらも二点で保持します。「シ」は、リコーダーを持つ指と人差し指を曲げるだけの動きでよいのです。しかし、「ド」は、中指を曲げ人差し指を伸ばすという反対の動きを組み合わせているので複雑になります。だから、「シ」を先に指導します。

以上のことから、「ソラシドレ」の順で習うのがよいと思われれます。また手順は、子どもの様子をよく観察し、子どもにとってわかりやすく成功しやすい方法をよく考えて工夫してください。

(3) 事例

	事例 1	事例 2
子どもの課題	リコーダーを持つ時に、手が逆になる。(三人)	ソの音が穴を完全にふさげずにきれいに出不い。
支援の方法	左手に指サックをつける。	パンチ穴補強シール貼る。
子どもの反応	三人中、二人は、すぐに直った。一人は、周りの子が気づいて注意していた。	きれいな音が出たのでとてもうれしそうな表情。

事例 1 は、三年生の二学期の時点の子ども達で、上の手が右手・下の手が左手になってしまっています。そこで、左手にゴムの指サックをはめて、どちらの手が上なのかを意識させました。そうすると、学級に三人の子が逆の手になっていたのに、指サックをはめるとすぐに二人は直りました。また、あと一人は、つけていることを忘れていて逆の手のままだったのですが、周りの子が気づいて注意してくれるようになりました。

事例 2 は、三年生の三学期で、ソの音が穴を完全にふさげないので音がきれいに生まれません。そこで、パンチ穴補強シールを「魔法のシールを貼るよ。」と言って貼りました。指でシールを感じ、ふさぐことの負担が減り、きれいな音が出たのでとても喜んでる表情でした。周りで見っていた子どもが、「魔法の兵器や！すごい。」と言って教室に戻ったらすぐに担任に報告していました。

4. 鉛筆について

(1) はじめに

子どもたちの学習時の鉛筆の持ち方を見ると、様々な形があります。一般的に「正しい持ち方」とされている持ち方は、親指、人差し指、中指の三本の指で持ちますが、この持ち方が最も「書きやすい持ち方」とされています。本研究では、どうしてこの持ち方が書きやすいのか、また他の持ち方では書くときにどういう影響があるのかについて調べ、支援方法についても考えました。

(2) 持ち方調査の結果

今回、小学校1年生121名の子どもの鉛筆の持ち方を調べ、タイプ別に分類しました。持ち方のタイプ、人数、割合は次表の通りです。

持ち方のタイプ		人数	割合(%)
書きやすい持ち方		64	52.9%
特徴のある持ち方	にぎりこみ型	3	2.5%
	巻きこみ型－空間あり	25	20.7%
	巻きこみ型－空間なし	9	7.4%
	中指押さえ型	13	10.7%
	のび型	3	2.5%
その他		4	3.3%
計		121	

(3) 持ち方の分類

ア：書きやすい持ち方



親指と中指で鉛筆をはさんで、人指し指で押さえ、たて軸とよこ軸の力の方向をコントロールしています

親指、人指し指、中指の3本の指で軽く持つことで、鉛筆をコントロールしやすくなり、細やかな動きを作ることができます。

細やかな動きが作られるために必要な要素としては、次の5点があげられます。

- ① 5本の指が自由に曲がったり動いたりする
- ② 手首が自由に動く
- ③ 筆圧の調節ができる
- ④ 指の触覚情報で手の動きを調整する
- ⑤ 視覚情報で手の動きを調整する

まんべんなく細やかに動かせる程度に、三本の指で軽く持った状態が「書きやすい持ち方」

ということになります。

イ：特徴のある持ち方

その他の持ち方のタイプを、にぎりこみ型、巻きこみ型、中指押さえ型、のび型の4つのタイプに分類しました。巻きこみ型はさらに、空間ありタイプと空間なしタイプに分けました。

① にぎりこみ型



親指をにぎりこんで、
こぶしをつくるように持っています。

②-1 巻きこみ型—空間あり



人指し指の上から親指を巻きこむように
持っています。
「空間あり」は鉛筆の周辺に隙間があいて
いるという意味です。

②-2 巻きこみ型—空間なし



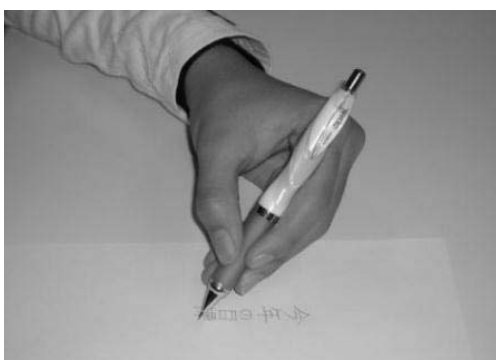
人指し指の上から親指を巻きこむように
持っていますが、鉛筆の周辺に隙間が
空いていません。

③ 中指押さえ型



中指が鉛筆を押さえています。

④ のび型



親指、人差し指、中指の三本の指で持っていますが、指が伸びているので、つまみの力が弱く、鉛筆を自由に扱いにくくなります。(左利きに多いと考えられます。国語、算数など文字を書いていく方向が手の動きと逆になります。そのため手元を見ながら書くために腕を外に回すために起こります。)

(4) 持ち方の課題

特徴のある持ち方の課題点をまとめると、「にぎりこみ型」と「巻きこみ型」は、手全体で握っている感じなので、腕や肩に余計な力が入り、疲れやすく肩こりの原因になったりします。またこの二つの持ち方は、鉛筆の芯の先端が見えにくいいため、見ようとすれば、頭が下がり、姿勢が崩れやすいです。さらに、「はらい」や「はね」などの細かい動きがしにくかったりします。

「中指押さえ型」は鉛筆が横に傾くために、書きやすい持ちかたにくらべると、少し鉛筆のコントロールがむずかしくなります。「のび型」は筆圧が弱く、細かい動きがしにくくなります。この2つのタイプは鉛筆をコントロールするのに必要以上に意識しながら力を要します。

特徴のあるの持ち方をしている子どもは、字を書くと疲れる、長く続けて書けないということが起こりやすいと言えます。

以上のことから、親指、人差し指、中指の3本の指で持つ、「書きやすい持ち方」が、最も鉛筆をコントロールしやすく、続けて書いても疲れにくいし、姿勢も崩れない鉛筆の持ち方であると言えます。

(5) 支援方法

ア：補助具

鉛筆をスムーズに操作するための支援方法の1つとして、補助具があります。ここではグリップと三角形の鉛筆を紹介します。いずれも「書きやすい持ち方」を覚えるためのものです。

鉛筆にはめるグリップ



三角形の鉛筆

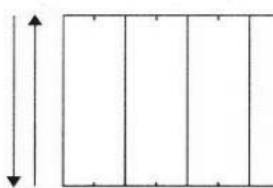
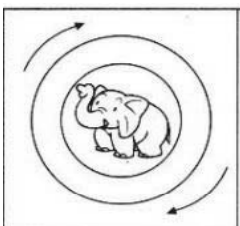


左上の写真のグリップは3カ所へこみがあって、親指、人差し指、中指をそのへこみに合わせると「書きやすい持ち方」になるように作られています。中指があたる部分は斜めに作られていて、指を合わせやすくなっています。

左下の写真のグリップも、3本の指をぴったりそわせると「書きやすい持ち方が出来上がります」。

右側の写真は三角形の鉛筆です。3つの面にそれぞれ親指、人差し指、中指をあてて持ちます。

イ：学習課題



なぞりのパターンによるトレーニング
(左：曲線の運筆練習 右：上下運動の運筆練習)

支援の2つ目は、上手に書けるようになるための学習課題です。曲線の運筆練習方法としては、外側の円を矢印の方向になぞります。次に内側の円を同じ方向になぞります。そして、2つの円に囲まれたドーナツ形の中を塗りつぶします。上下運動の運筆練習のほうは、まず下向きの矢印を上から下になぞります。次に上向

きの矢印を下から上になぞります。そのあと長方形の上辺の中心の点と下辺の中心の点を上から下に結び、また往復させて上の点に戻り、1往復させます。

その他として、粘土板やベニヤ板など抵抗のあるものの上で線をひくという練習方法もあります。抵抗のある状態で線を描くことで、鉛筆をコントロールする筋力が鍛えられます。

5. コンパスについて

(1) はじめに

この研究では、はじめにコンパスで円を描くときの困難さについて考えました。次に、コンパスで円を描くときの要素について検討し、支援方法を話し合いました。コンパスの各部分は、コンパスの上は「軸」、特に持ち手だけを「頭」、用紙を刺すところを「針」としておきます。

(2) コンパスで円を描くときの困難さ

手先の細かな運動を苦手とする児童がコンパスで円を描くときの困難さは4点ありました。

- ①針がノートにささらず、コンパスがすべる。
- ②三本の指で軸をつまむが回しにくい。
- ③円の中心がずれ、いびつな円の形になる。
- ④円周上の曲線の結びが閉じず二重線になる。

(3) コンパスで円を描くときに必要な要素

次にコンパスで円を描くときの要素を検討した結果、5つ考えられました。

- ①描いている間ずっと、手頸、肘、肩の位置を固定し、保持する。
- ②手の親指、人差し指、中指の三点でつまみ回転させる。
- ③描くためには、つまむ、おす、回す手順がわかっている。
- ④中心がずれないように針で押さえながら、開始の位置と回転の方向を考える。
- ⑤中心がずれないように回す力の調節をしながら、始点と終点を合わせるために目と手を協応させる。

(4) 支援方法

支援方法は6つです。学校場面の手立てが5つです。そのほか遊びや生活でもできることはないかと考え、家庭や遊びの場面の手立ても1つ入れました。

ア：手立て1

用紙を固定させます。用紙を固定し針を安定させると、コンパスの操作がしやすくなります。ゴム製下敷きは円を描くとき、下敷きを敷くように使います。こうしておく針がゴム下敷きに刺さったままの状態になるので、次の回転がしやすくなります。

イ：手立て2

空回しを練習させます。ここでは指三点でつまみ、回す動きだけを中心に練習します。こ

のときコンパスは閉じた状態から始めます。まず、コンパスの軸を軽くつまみ空中で回します。回数を決めて回させます。コンパスの針の金具に飾りを付けて回すと、興味を持ってします。続いてコンパスを開き、開始の位置を指定しても回せるようにします。スムーズな動きになったら、コンパスの頭だけを持って回すようにします。

ウ：手立て3

コンパスの針をしっかりと刺して回させます。三本指のつまみ、回転がしにくい子にはコンパスの頭に筒を刺し、持つところを長くします。(写真1)このような支援をすることで、押さえながら回転させる動きの難しさを軽減することができます。小さい円をかくときは芯が針より1ミリほど長くするとかきやすくなります。コンパスの上を握りこんで持つときはコンパスの頭を上からつまむように持たせます。針を強く押し付けるため中心に穴があくときは、子どものもつ手を上から指導者が手を添え力を入れ具合を教えます。

腕が下がるときは肘の下に箱をおいて、肩、肘がさがらないように支援します。

エ：手立て4

円弧をたくさん描かせます。図1・2のようにします。



図1



図2



写真1

オ：手立て5

いろいろな位置から、段階的に描かせます。まず、半円を描きます。描きやすい開始の位置をつかみ、図3・4のように12時、6時の位置から描きます。

次に図5・6のように9時の位置からスタートして始点の位置へゴールするようにします。

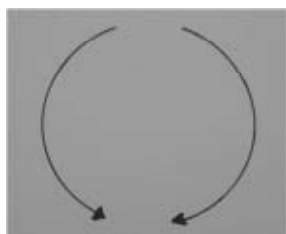


図3

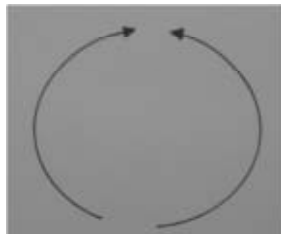


図4



図5

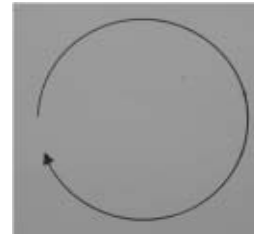


図6

カ：手立て6

手指を使った遊びをさせます。ここでは遊びとしては、コマ回し、指人形、陣取り、音をパチンと鳴らすような活動が考えられました。生活の中では手回し鉛筆削りで削る、巻きずしやロールサンド作り、セロテープやラップを切るなどがあると思います。

(5) 事例

ア：対象児童

小学3・4年生3名に実施しました。

イ：実施方法

まずはコンパスの使い方を説明したあと実際に描いて示しました。半径は指定せず、用紙に円を描かせました。

そのうち二人はコンパスの針が円の中心からずれてしまい、円の始点と終点が閉じず二重線になりました。

ウ：原因

用紙をうまく固定できず、コンパスの針がすべるため。

エ：支援

二人にはプリントの裏に滑り止めシートをはりつけ、再度作図させました。すると、用紙が安定し、コンパスの針が固定しやすくなりました。その結果、授業の終わりには一重円が描けるようになりました。

6. おわりに

巧緻性の課題をもつ子どもたちが、道具を使うときの困難さとその手だてについて、今回は3種の道具と座位姿勢をとりあげ、研究しました。まず道具を使うときの様子をよく観察し、子どものもつ困難さを理解することが大切だと思われました。次に支援方法ですが、今回わかりやすい手立てになればと考え、補助具を利用しました。使用した補助具の購入については身近な百円均一ショップなどを利用するのも一つだと思われま

す。また、これまであげた遊びや活動を普段の生活で意欲的に取り入れることが必要と思われま

す。今日紹介したものは目新しいものではありません。以前は、あたりまえに遊びとして体験できていたビー玉や面子、あやとりなど手先の発達を促す伝承遊びが、今日ではあまり経験されなくなっているのです。こういった遊びに親しませることも巧緻性を高める土台となっていくと思われま

さいごに望ましい支援グッズについて、5点にまとめました。

- 一つ、安全であること
- 二つ、安価であること
- 三つ、身近で手に入りやすいこと
- 四つ、すぐ、どこでもつけられるもの
- 五つ、児童が取り外しやすいもの